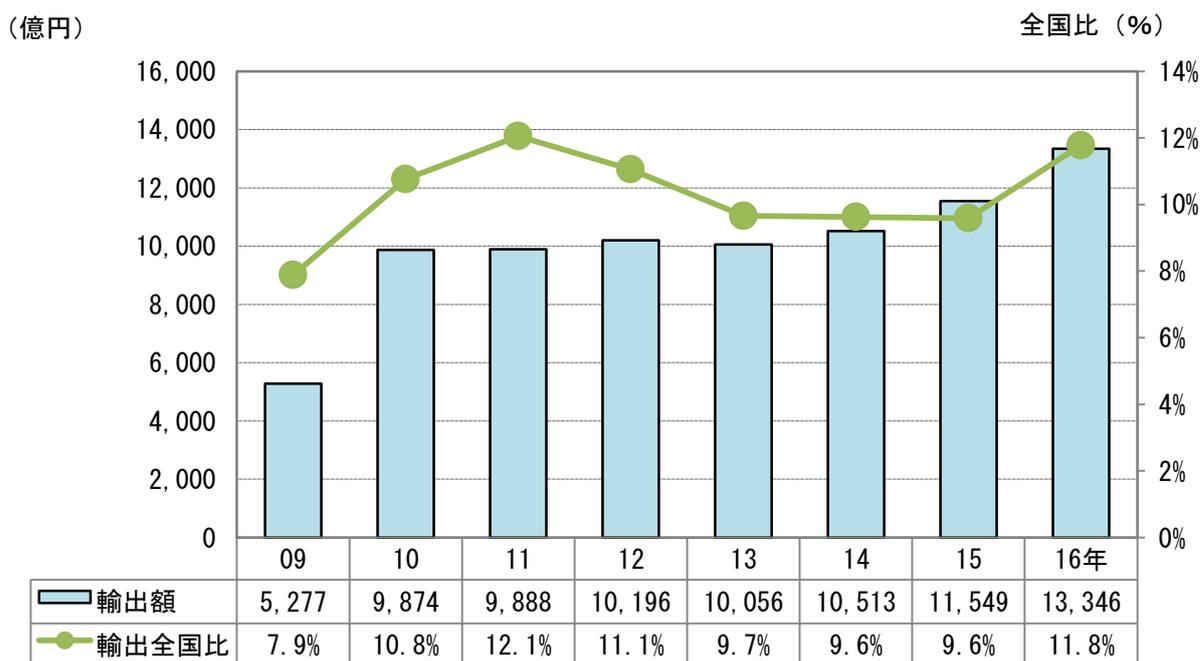


第3部 分野別に見た九州の主要産業

第1章 自動車・自動車の部分品

- 2016年の九州の自動車輸出額は1兆3,346億円（前年比15.6%増）と、3年連続の増加となった。輸出先は、米国が最も多く、次いで中国、アラブ首長国連邦等となっている。
- 2016年の九州の自動車生産台数は、135万台（前年比0.1%増）で、日本全体の生産台数（920万台）の約15%を占めている。

図表 3-1-1 九州の自動車輸出額の推移



図表 3-1-2 自動車の主な輸出相手国・地域の推移（2011年・2016年）

（単位：億円、%）

2011年			2016年		
	金額	構成比		金額	構成比
全国			全国		
米国	24,497	29.9%	米国	44,115	38.9%
オーストラリア	6,086	7.4%	オーストラリア	6,771	6.0%
ロシア	5,886	7.2%	中国	5,341	4.7%
中国	5,578	6.8%	アラブ首長国連邦	4,680	4.1%
カナダ	2,529	3.1%	カナダ	3,062	2.7%
その他	37,466	45.7%	その他	49,359	43.6%
計	82,042	100.0%	計	113,329	100.0%
九州			九州		
米国	4,270	43.2%	米国	3,555	26.6%
中国	2,004	20.3%	中国	3,430	25.7%
ロシア	686	6.9%	アラブ首長国連邦	932	7.0%
カナダ	364	3.7%	メキシコ	717	5.4%
英国	301	3.0%	台湾	492	3.7%
その他	2,263	22.9%	その他	4,222	31.6%
計	9,888	100.0%	計	13,346	100.0%

図表 3-1-1～2 出所：財務省「貿易統計」より九州経済産業局作成。

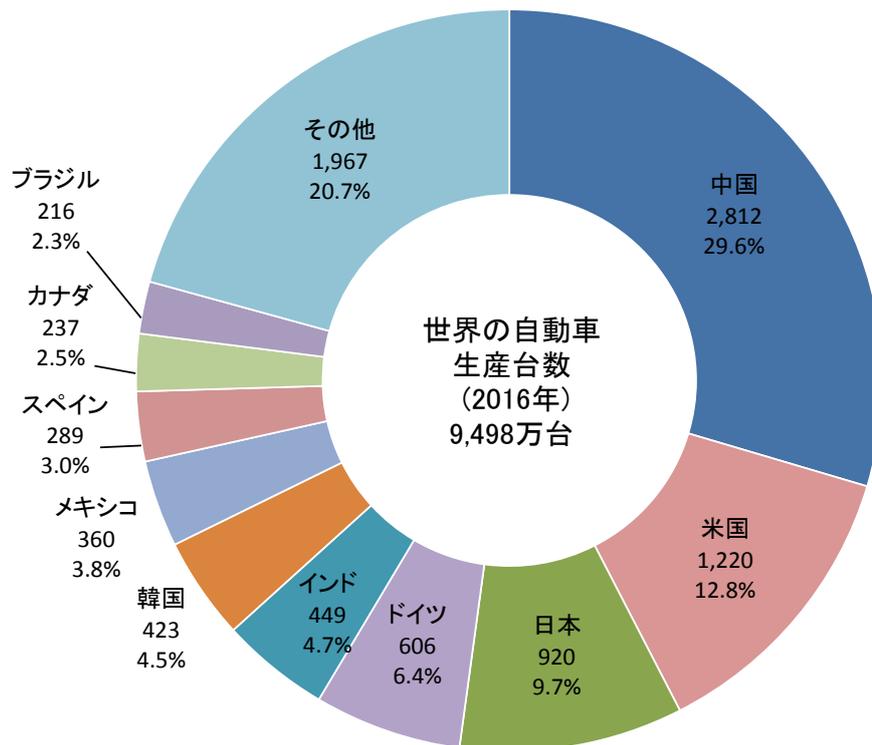
図表 3-1-3 世界の自動車生産台数

(単位：万台、%)

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2016年		
							構成比	伸び率	11年比
ヨーロッパ	2,095	1,986	1,992	2,043	2,117	2,170	22.8%	2.5%	3.6%
米州	1,779	2,009	2,113	2,122	2,096	2,085	22.0%	-0.5%	17.2%
アジア大洋州	4,058	4,370	4,582	4,740	4,788	5,152	54.2%	7.6%	27.0%
日本	840	994	963	977	928	920	9.7%	-0.8%	9.6%
九州	119	146	134	130	135	135	1.4%	0.1%	13.3%
中国	1,842	1,927	2,212	2,373	2,457	2,812	29.6%	14.5%	52.7%
韓国	466	456	452	452	456	423	4.5%	-7.2%	-9.2%
インド	393	417	390	384	416	449	4.7%	7.9%	14.3%
タイ	146	243	246	188	191	194	2.0%	1.8%	33.4%
その他	372	332	319	365	341	354	3.7%	3.8%	-4.9%
アフリカ	56	59	64	72	84	90	0.9%	7.9%	62.0%
世界計	7,988	8,424	8,751	8,978	9,084	9,498	100.0%	4.5%	18.9%

図表 3-1-4 世界の自動車生産台数の国・地域別構成比

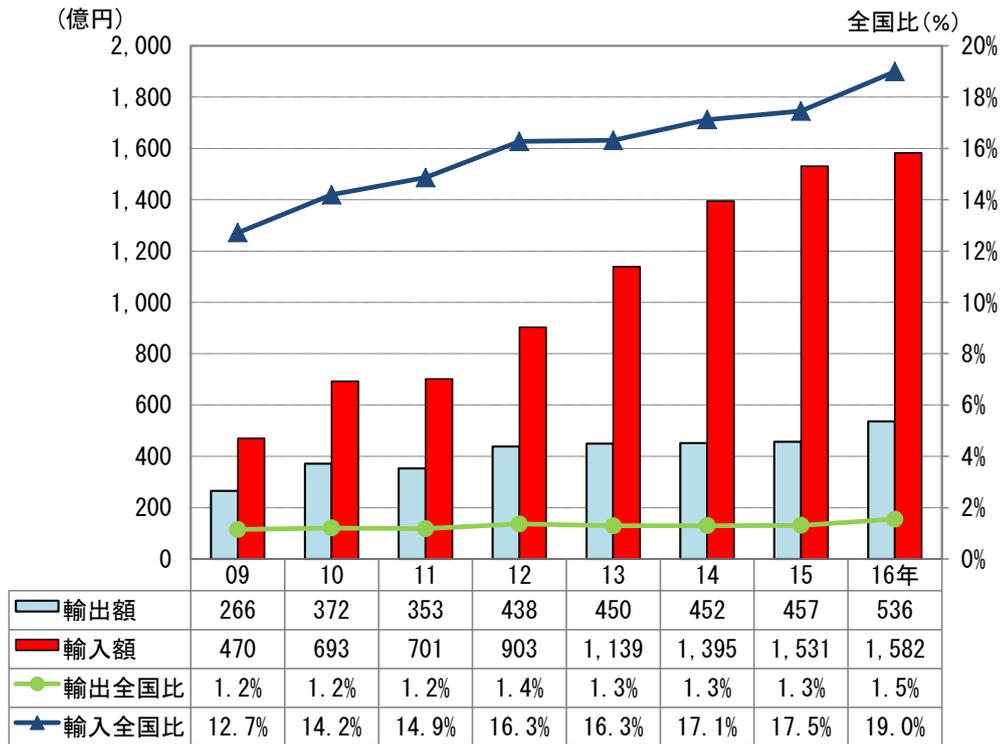
(単位：万台、%)



図表 3-1-3~4 出所：国際自動車工業連合会HP、九州経済産業局資料より九州経済産業局作成。

- 2016年の九州の自動車の部分品の貿易額は、輸出が536億円（前年比17.4%増）、輸入が1,582億円（前年比3.3%増）で、輸出入ともに前年を上回った。輸出先は米国が最も多く、次いでマレーシア、カナダ等となっている。輸入元については、中国が最も多く、次いで韓国、タイ等となっている。
- 九州からの輸出相手国・地域では、米国、ASEAN、韓国向けの割合が増加した一方、中国やロシア向けの割合は減少した。
- 九州への輸入相手国・地域では、メキシコ、韓国からの割合が増加した一方、中国、ASEANからの割合は減少した。

図表 3-1-5 九州の自動車の部分品貿易額の推移



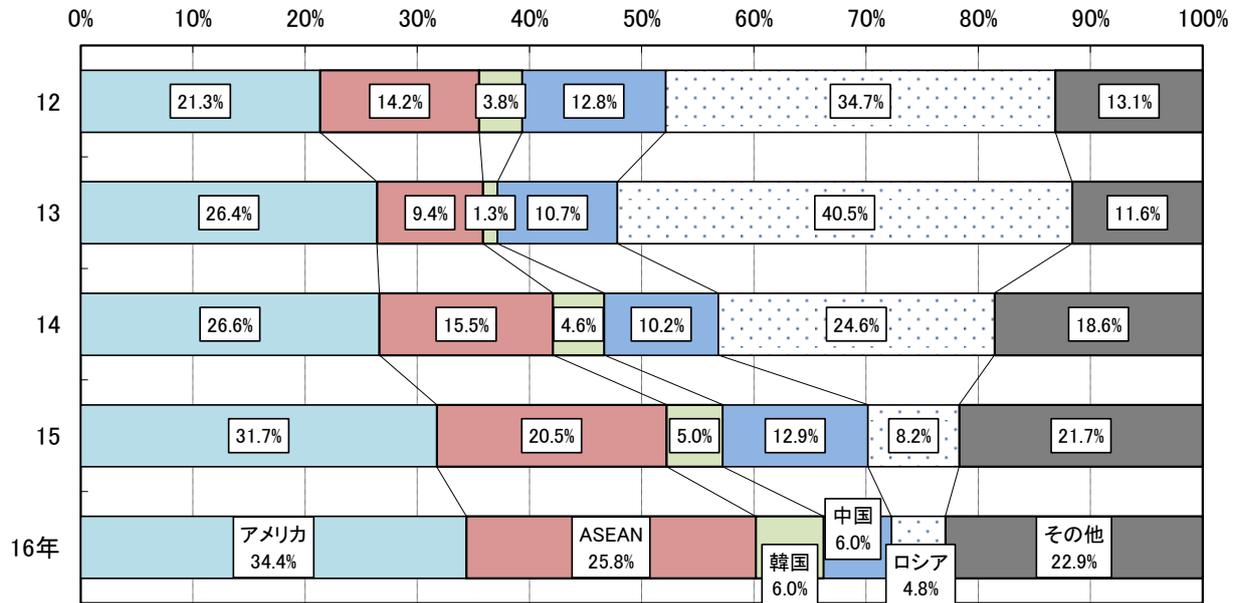
図表 3-1-6 自動車の部分品の主な輸出入相手国・地域（2016年）

（単位：億円、%）

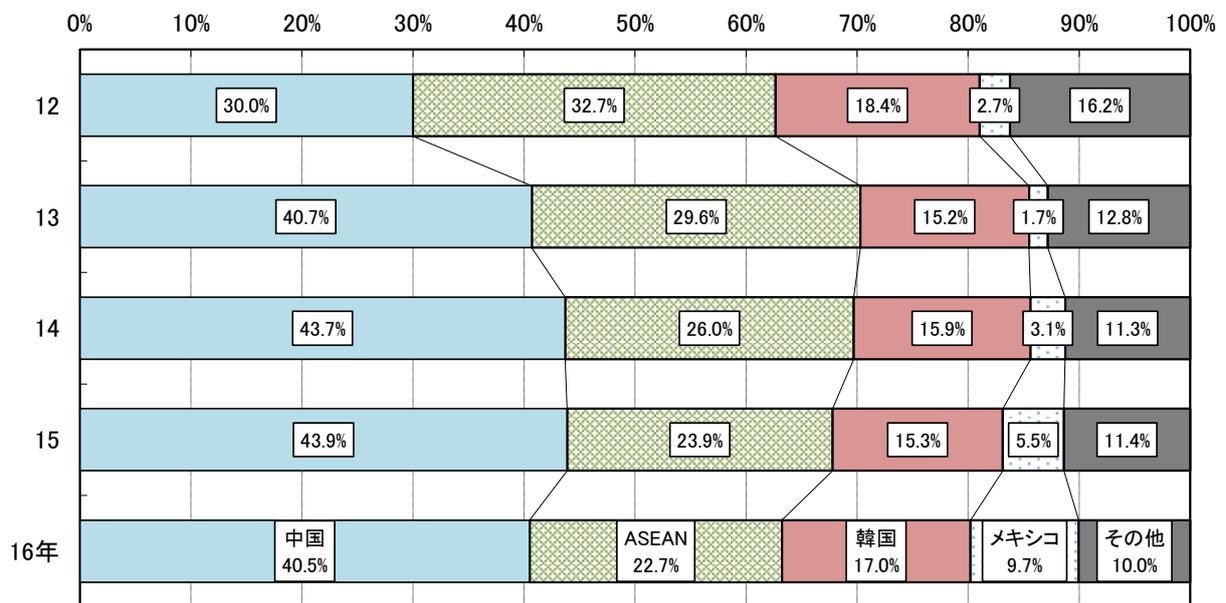
輸出			輸入		
	金額	構成比		金額	構成比
全国			全国		
米国	8,632	24.9%	中国	3,040	36.5%
中国	6,706	19.4%	韓国	820	9.8%
タイ	2,862	8.3%	タイ	772	9.3%
メキシコ	1,724	5.0%	ドイツ	659	7.9%
カナダ	1,589	4.6%	米国	511	6.1%
その他	13,105	37.9%	その他	2,527	30.3%
計	34,617	100.0%	計	8,329	100.0%
九州			九州		
米国	184	34.4%	中国	641	40.5%
マレーシア	84	15.7%	韓国	269	17.0%
カナダ	38	7.1%	タイ	182	11.5%
韓国	32	6.0%	メキシコ	154	9.7%
中国	32	6.0%	フィリピン	74	4.7%
その他	165	30.7%	その他	263	16.6%
計	536	100.0%	計	1,582	100.0%

図表 3-1-5~6 出所：財務省「貿易統計」より九州経済産業局作成。

図表 3-1-7 九州の自動車の部分品の輸出相手国・地域の推移



図表 3-1-8 九州の自動車の部分品の輸入相手国・地域の推移

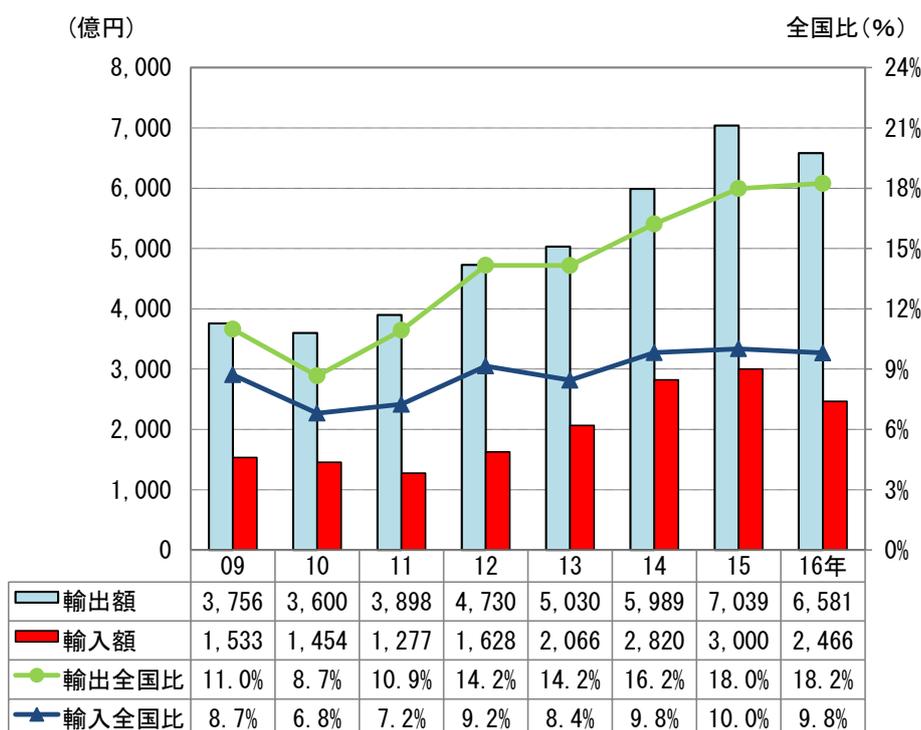


図表 3-1-7~8 出所：財務省「貿易統計」より九州経済産業局作成。

第2章 半導体等電子部品

- 2016年の九州の半導体等電子部品貿易額は、輸出が6,581億円（前年比6.5%減）、輸入が2,466億円（前年比17.8%減）で、輸出入ともに前年より減少した。輸出先は香港が最も多く、次いで韓国、中国等となっている。輸入元については、台湾が最も多く、次いで中国、韓国等となっている。
- 九州からの輸出相手国・地域では、香港、韓国、米国向けの割合が増加した一方、ASEAN、中国、台湾向けの割合は減少した。
- 九州への輸入相手国・地域では、台湾からの割合が増加し6割を占めるようになった一方、中国、ASEANからの割合は減少した。

図表 3-2-1 九州の半導体等電子部品貿易額の推移



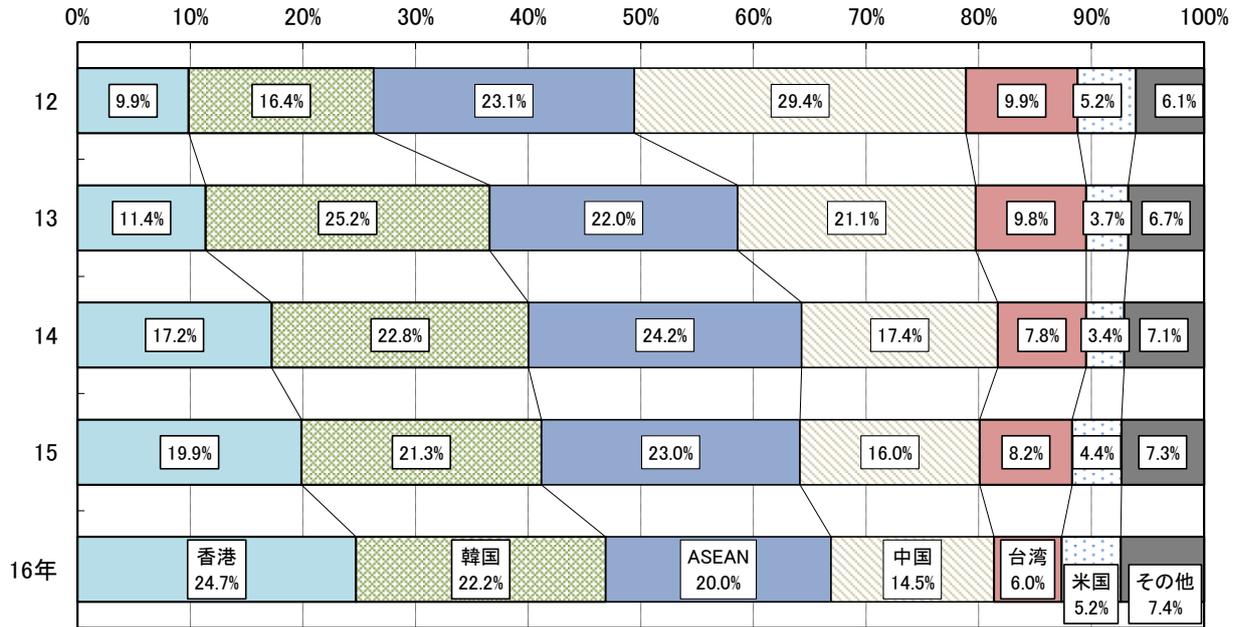
図表 3-2-2 半導体等電子部品の主な輸出入相手国・地域（2016年）

(単位：億円、%)

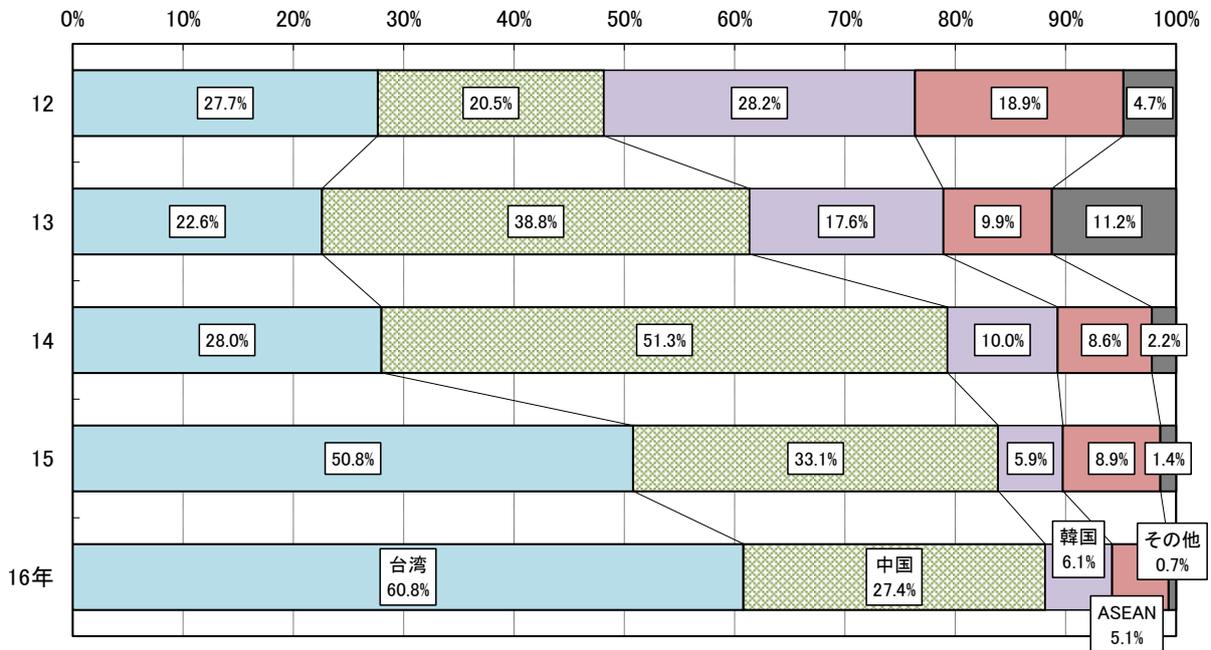
輸出			輸入		
	金額	構成比		金額	構成比
全国			全国		
中国	9,227	25.6%	台湾	9,571	38.1%
台湾	6,446	17.9%	中国	5,158	20.5%
香港	5,571	15.4%	米国	3,506	13.9%
韓国	2,585	7.2%	韓国	1,823	7.3%
米国	2,521	7.0%	マレーシア	1,133	4.5%
その他	9,722	27.0%	その他	3,955	15.7%
計	36,072	100.0%	計	25,146	100.0%
九州			九州		
香港	1,627	24.7%	台湾	1,499	60.8%
韓国	1,458	22.2%	中国	674	27.4%
中国	951	14.5%	韓国	150	6.1%
ベトナム	618	9.4%	フィリピン	60	2.4%
台湾	396	6.0%	マレーシア	27	1.1%
その他	1,531	23.3%	その他	56	2.3%
計	6,581	100.0%	計	2,466	100.0%

図表 3-2-1~2 出所：財務省「貿易統計」、門司税関提供のデータより九州経済産業局作成。

図表 3-2-3 九州の半導体等電子部品の輸出相手国・地域の推移



図表 3-2-4 九州の半導体等電子部品の輸入相手国・地域の推移

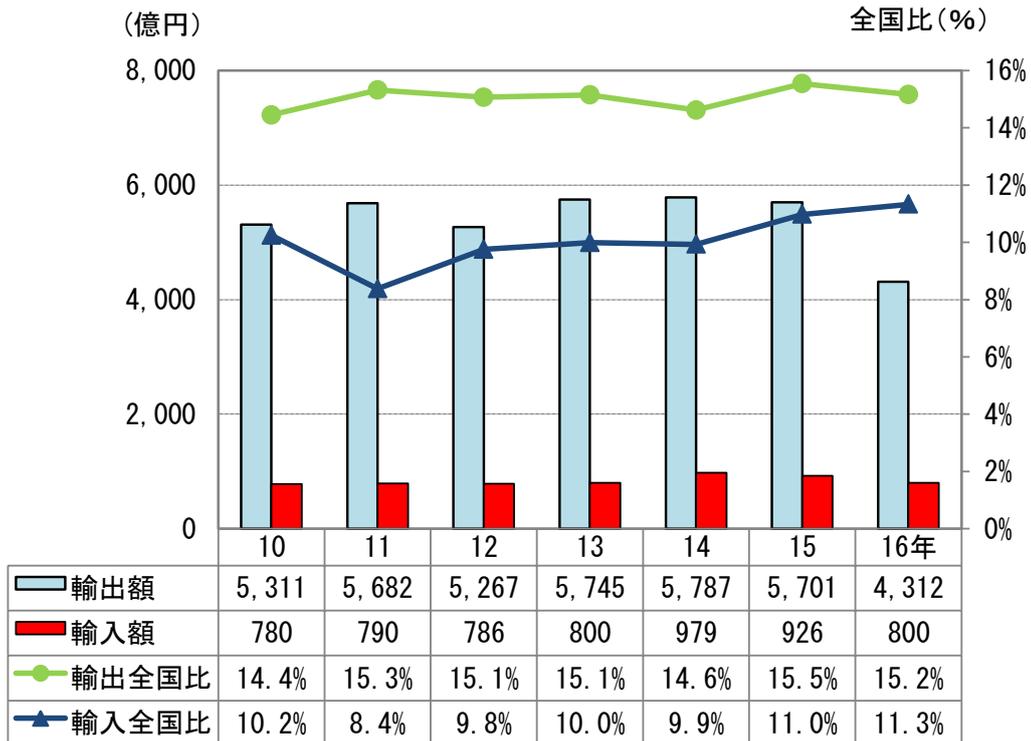


図表 3-2-3~4 出所：財務省「貿易統計」、門司税関提供のデータより九州経済産業局作成。

第3章 鉄鋼

- 2016年の九州の鉄鋼貿易額は、輸出が4,312億円（前年比24.4%減）、輸入が800億円（前年比13.6%減）で、輸出入ともに前年より大幅に減少。輸出先はタイが最も多く、次いで中国、韓国等の順、輸入元は韓国が最も多く、次いで中国、南アフリカ共和国等となっている。
- 2016年の九州の粗鋼生産量は16百万トンで、日本全体の生産量（105百万トン）の約15%を占めている。

図表 3-3-1 九州の鉄鋼貿易額の推移



図表 3-3-2 鉄鋼の主な輸出入相手国・地域（2016年）

（単位：億円、%）

輸出			輸入		
	金額	構成比		金額	構成比
全国			全国		
中国	4,641	16.3%	韓国	2,499	35.4%
韓国	4,028	14.2%	中国	1,365	19.3%
タイ	3,714	13.1%	台湾	654	9.3%
米国	1,909	6.7%	カザフスタン	455	6.4%
台湾	1,540	5.4%	南アフリカ共和国	324	4.6%
その他	12,602	44.3%	その他	1,764	25.0%
計	28,433	100.0%	計	7,062	100.0%
九州			九州		
タイ	641	14.9%	韓国	325	40.7%
中国	620	14.4%	中国	91	11.3%
韓国	590	13.7%	南アフリカ共和国	79	9.9%
米国	278	6.5%	ブラジル	78	9.7%
メキシコ	240	5.6%	カザフスタン	66	8.3%
その他	1,942	45.0%	その他	161	20.1%
計	4,312	100.0%	計	800	100.0%

図表 3-3-1～2 出所：財務省「貿易統計」、門司税関提供のデータより九州経済産業局作成。

図表 3-3-3 主要国の粗鋼生産量

(単位：百万トン、%)

	2013年	2014年	2015年	2016年	構成比
中国	815	823	804	808	50.2%
EU	166	169	166	162	10.1%
日 本	111	111	105	105	6.5%
うち九州	17	16	16	16	1.0%
インド	81	87	89	96	5.9%
米国	87	88	79	78	4.9%
ロシア	69	71	71	71	4.4%
韓国	66	72	70	69	4.3%
トルコ	35	34	32	33	2.1%
ブラジル	34	34	33	30	1.9%
その他	186	181	144	158	9.8%
世界計	1,650	1,670	1,592	1,610	100.0%

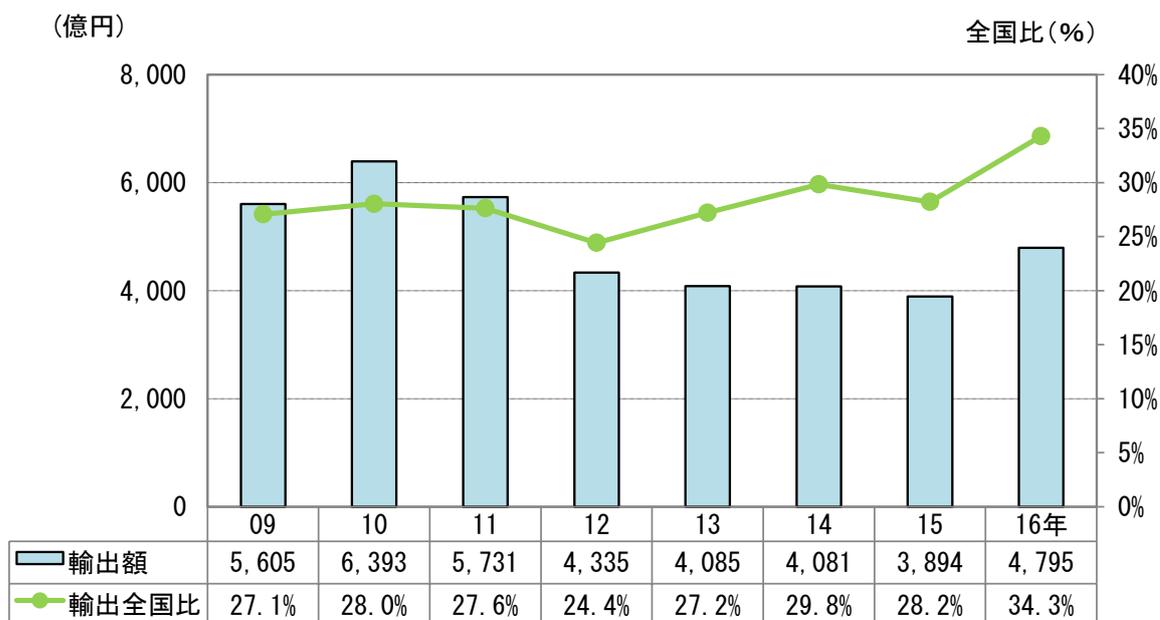
備考：EUはクロアチアを除く 27 カ国の計

出所：（一社）日本鉄鋼連盟資料より九州経済産業局作成。

第4章 船舶類

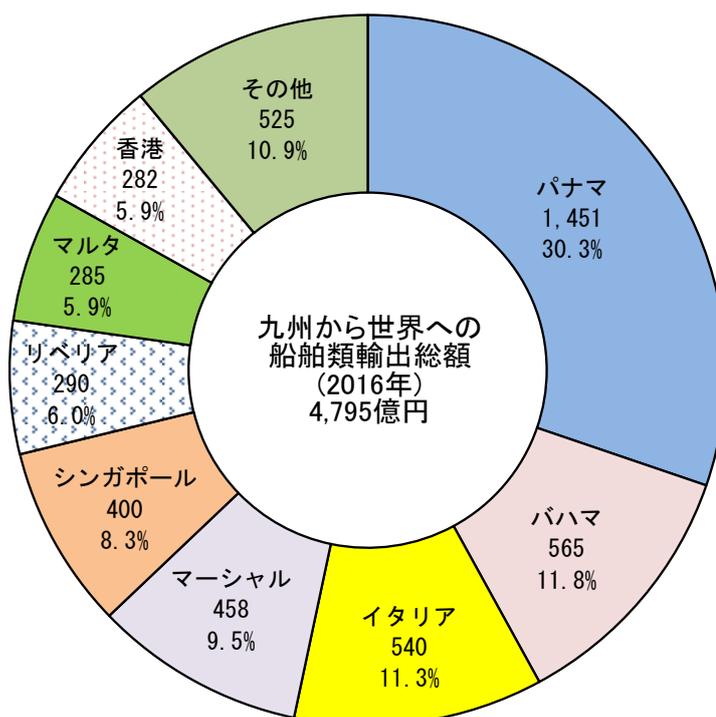
- 2016年の九州の船舶類輸出額は4,795億円（前年比23.1%増）で、6年ぶりの増加。輸出先はパナマが最も多く、次いでバハマ、イタリア等となっている。
- 船舶類については、九州の輸出額が全国（13,972億円）の34.3%を占めており、また、竣工量においても世界全体の5.7%（2015年度値）を占めるなど、九州の主力輸出品目の一つとなっている。

図表 3-4-1 九州の船舶類の輸出額推移



図表 3-4-2 九州の船舶類の輸出相手国・地域

(単位：億円、%)

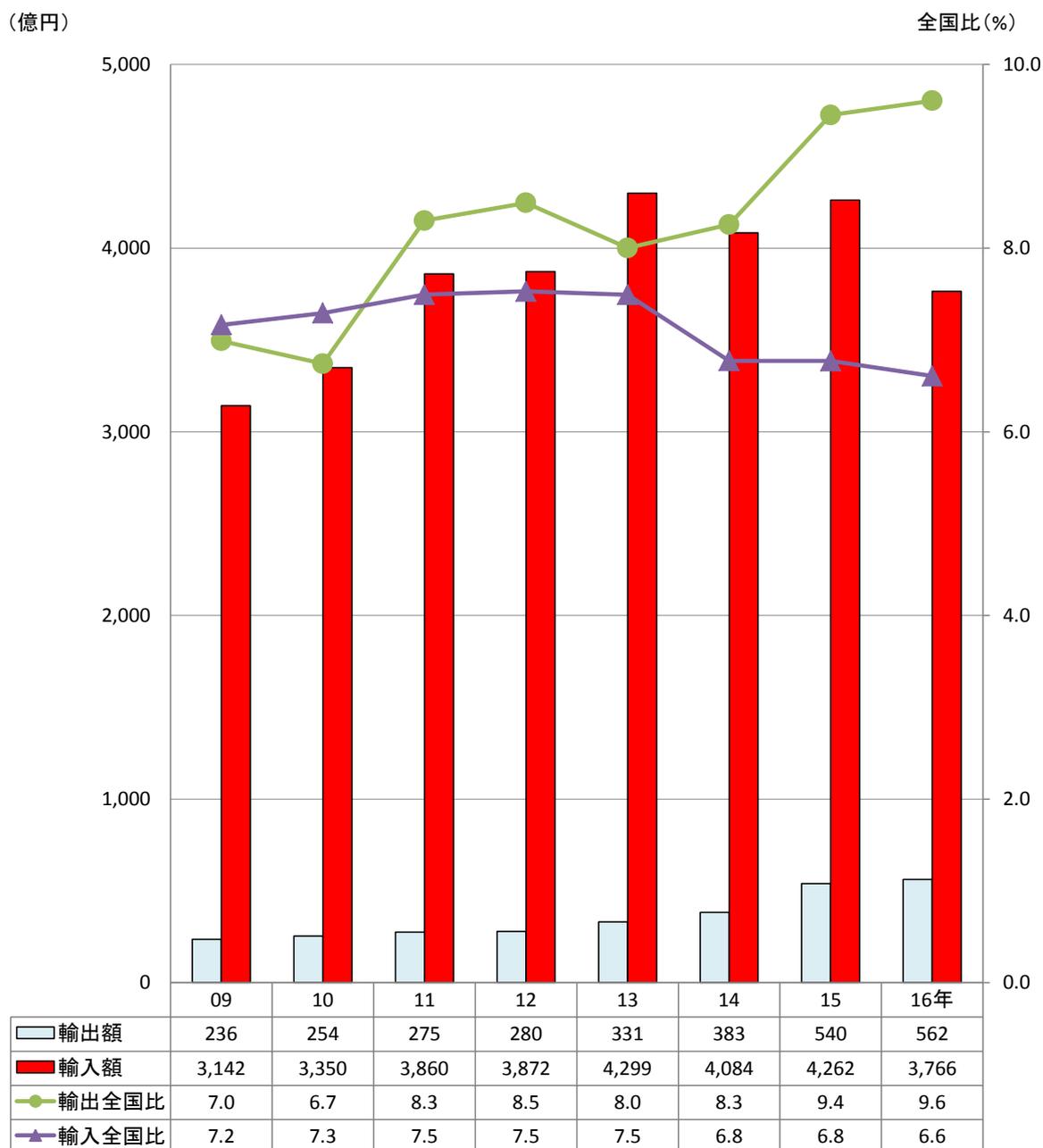


図表 3-4-1~2 出所：財務省「貿易統計」、門司税関提供のデータより九州経済産業局作成。

第5章 食料品

- 2016年の九州の食料品貿易額は、輸出が562億円（前年比4.0%増）と2009年から毎年増加している。輸入が3,766億円（前年比11.6%減）と前年を下回った。貿易収支については、大幅な輸入超過が続いている。
- 輸出はアジアや北米向けが多く、品目としては魚介類が過半を占めている。輸入は北米やアジアのほか、中南米や大洋州などより多様な国々との取引となっており、品目としては穀物類と魚介類が多い。

図表 3-5-1 九州の食料品貿易額の推移

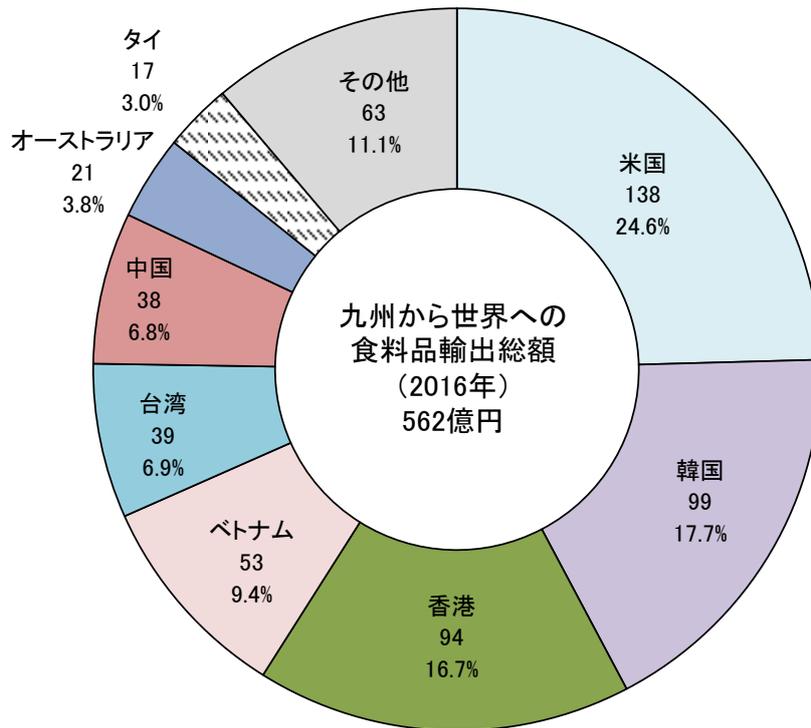


備考：「食料品」とは、「食料品及び動物（大分類）」、「飲料（中分類）」、「動植物性油脂（大分類）」を足したもののから、「生きた動物（中分類）」、「飼料（中分類）」、「加工油脂及びろう（中分類）」を差し引いたものとする。

出所：財務省「貿易統計」、門司税関提供のデータより九州経済産業局作成。

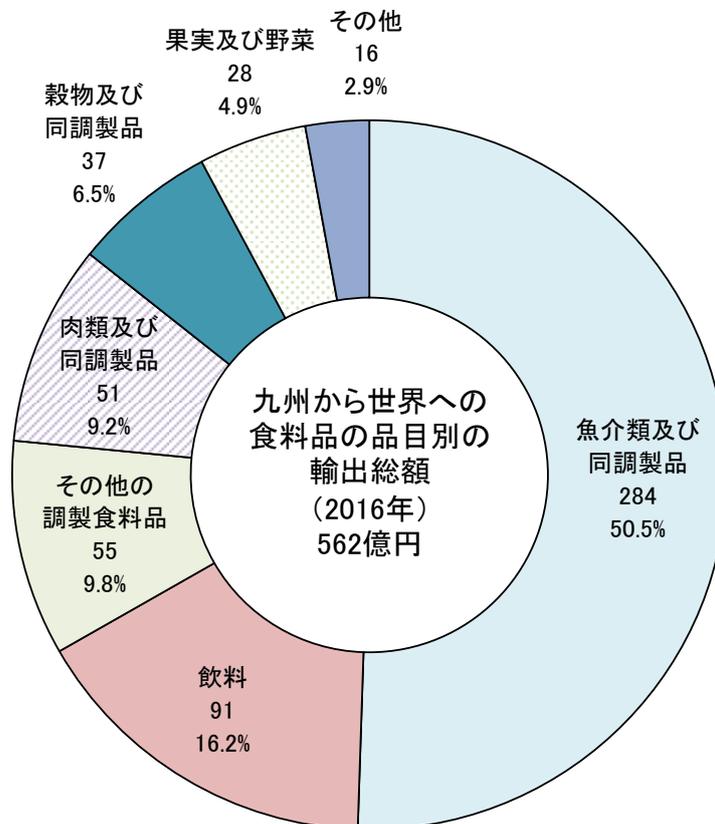
図表 3-5-2 九州の食料品の国・地域別輸出額

(単位：億円、%)



図表 3-5-3 九州の食料品の品目別輸出額

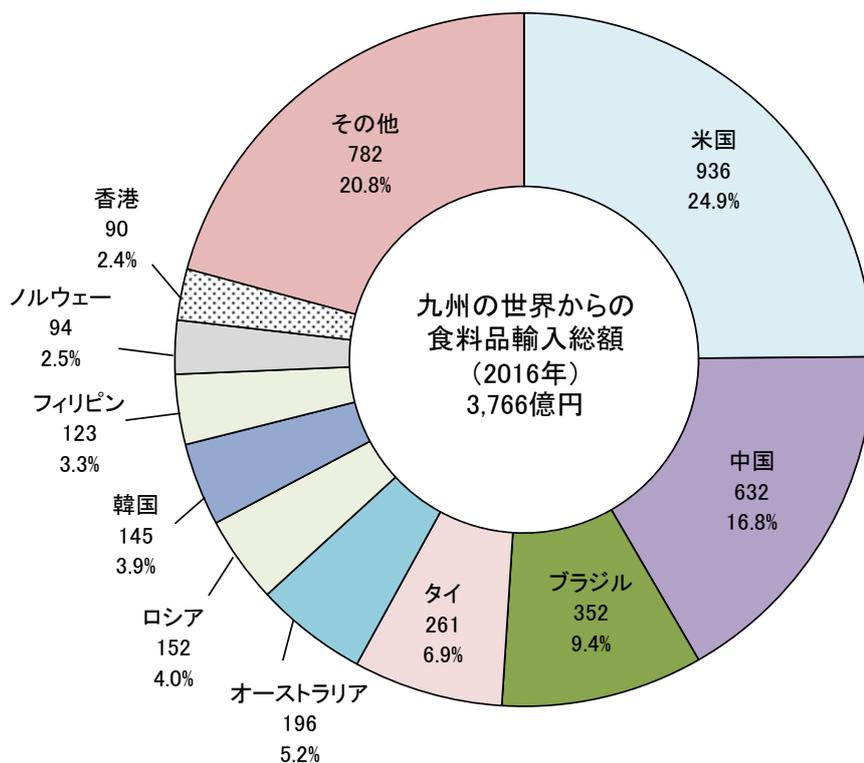
(単位：億円、%)



図表 3-5-2~3 出所：財務省「貿易統計」より九州経済産業局作成。

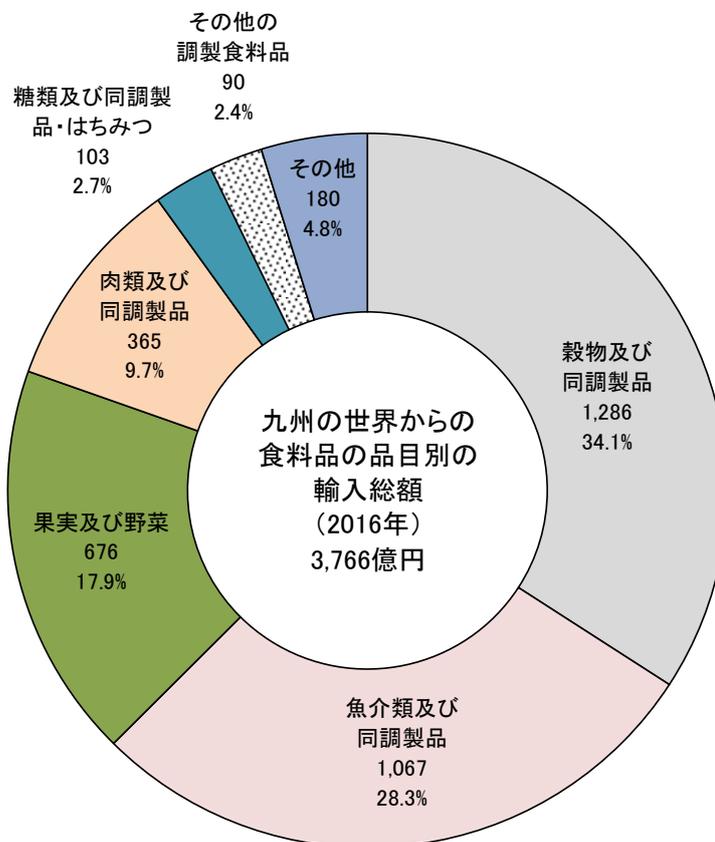
図表 3-5-4 九州の食料品の国・地域別輸入額

(単位：億円、%)



図表 3-5-5 九州の食料品の品目別輸入額

(単位：億円、%)



図表 3-5-4~5 出所：財務省「貿易統計」より九州経済産業局作成。

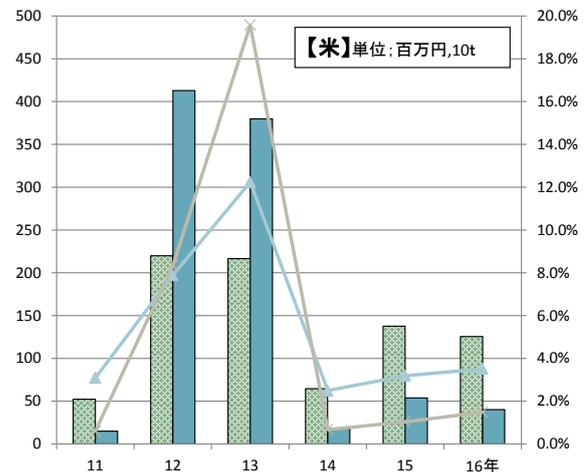
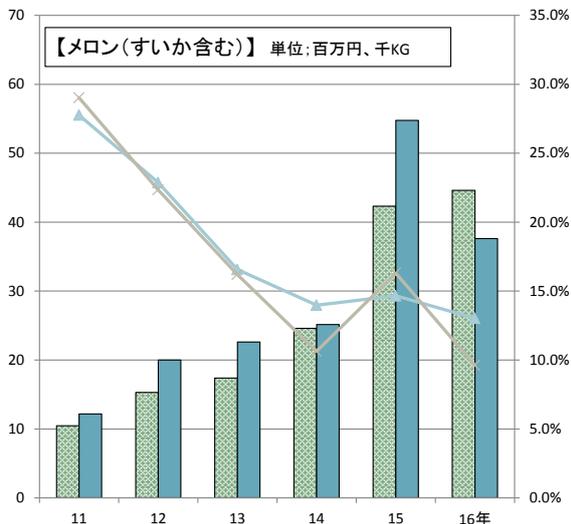
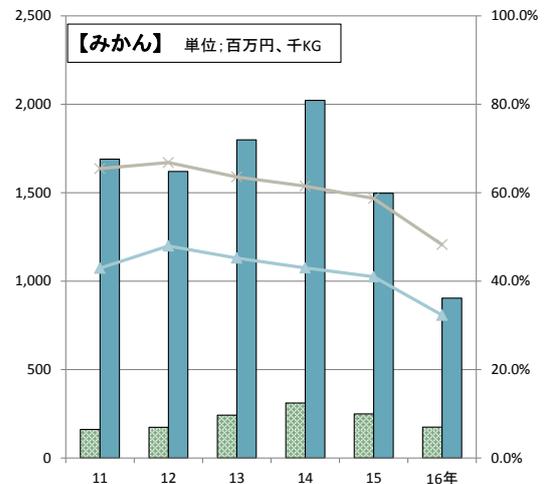
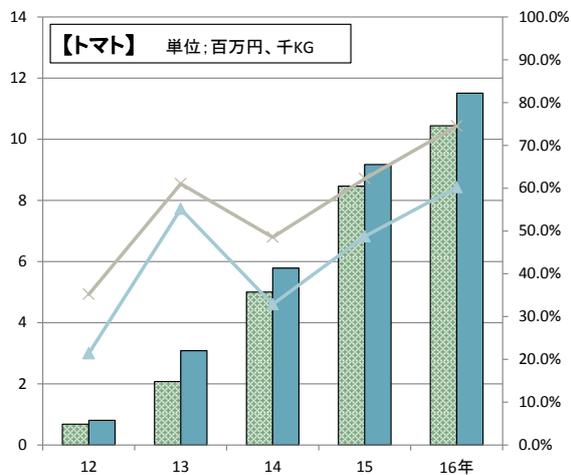
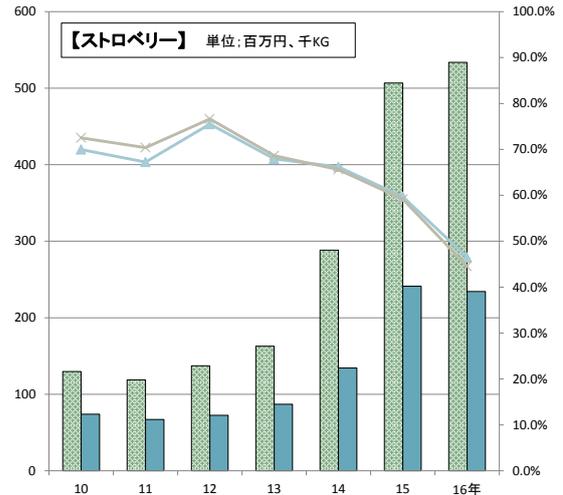
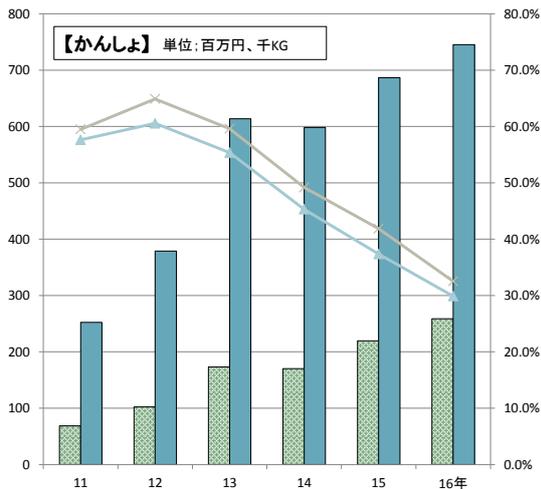
第6章 農林水産物及び加工品

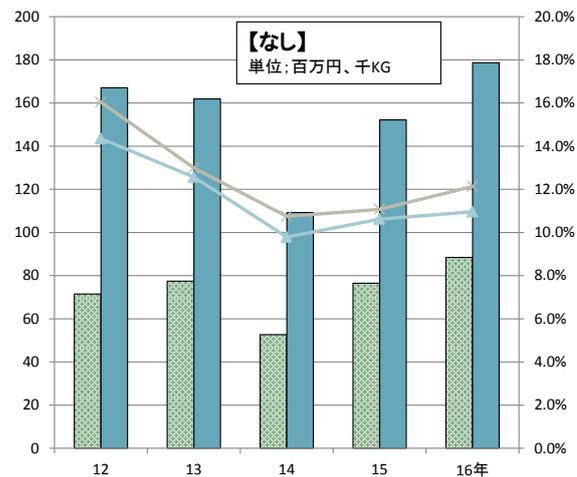
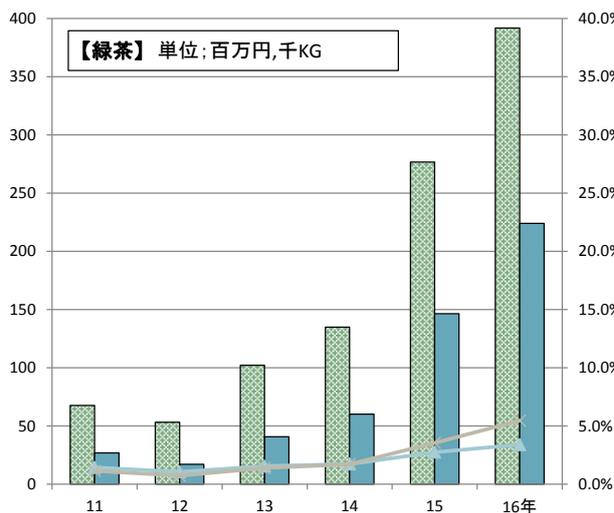
●近年、各種農林水産物の輸出額及び輸出数量が伸びており、さまざまな国に輸出されている。主要な農林水産物について、輸出動向は以下のとおり。

図表 3-6-1 九州の主要な農林水産物の輸出額・数量推移

① 野菜・果物等

九州輸出額 九州数量 輸出額全国比 数量全国比





参考

野菜等の輸出に際し、最も重要な貯蔵条件は、品目によりそれぞれ異なっており、水分の多い野菜は貯蔵日数が短く、根菜類は長い傾向にある。

品目	貯蔵最適温度(°C)	貯蔵限界(目安)
サツマイモ	13~15	4~7月
イチゴ	0	7~10日
トマト(完熟)	8~10	1~3週間
トマト(緑熟)	10~13	2~5週間
メロン(ネットメロン)	2~5	2~3週間
メロン(その他)	7~10	3~4週間

出所: (独)農研機構・野菜茶業研究所「野菜の最適貯蔵条件」を参考に作成。

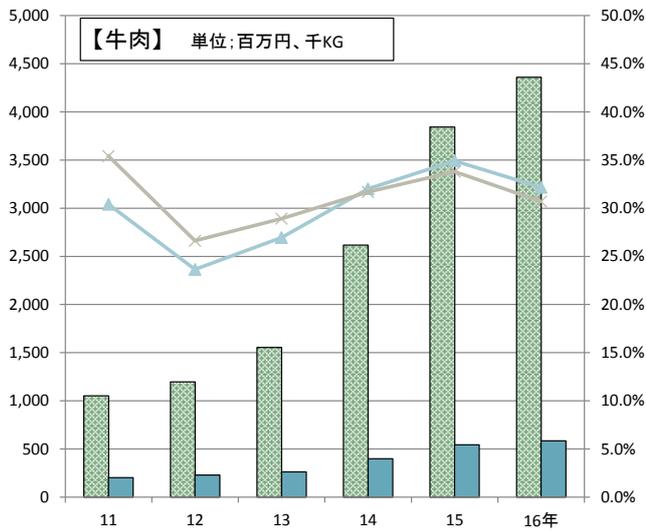
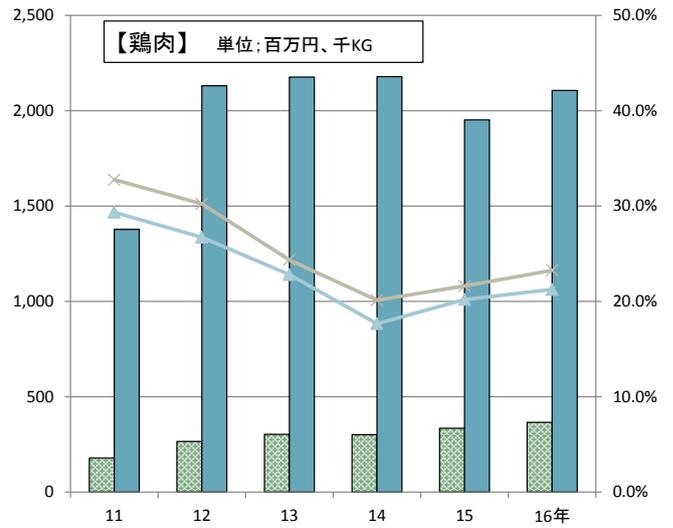
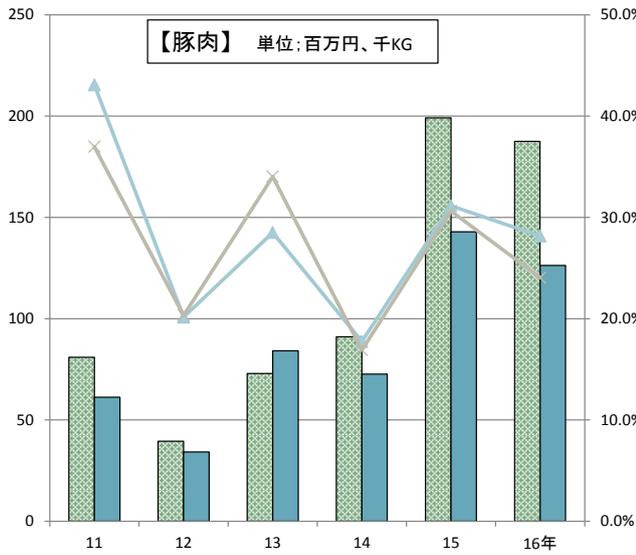
海外への生鮮食料品等の流通においては、生産段階から消費段階まで低温に保ちながら流通されるしくみ「コールドチェーン」の整備が進められている。

○輸出額が大きい野菜・果物等はストロベリー、緑茶、みかん等で、輸出額の全国比が高いものは、トマト、ストロベリー、みかん等となっている。

○かんしょ、ストロベリー、トマト、メロン(すいか含む)、緑茶等は輸出額が増加傾向にある。

備考: HSコードは次のとおり。【かんしょ】071420、【ストロベリー】081010、【トマト】070200、
 【みかん】080520、【メロン】0807、【米】100610、100620、100630、100640、
 【緑茶】090210、090220、【なし】080830

② 肉類

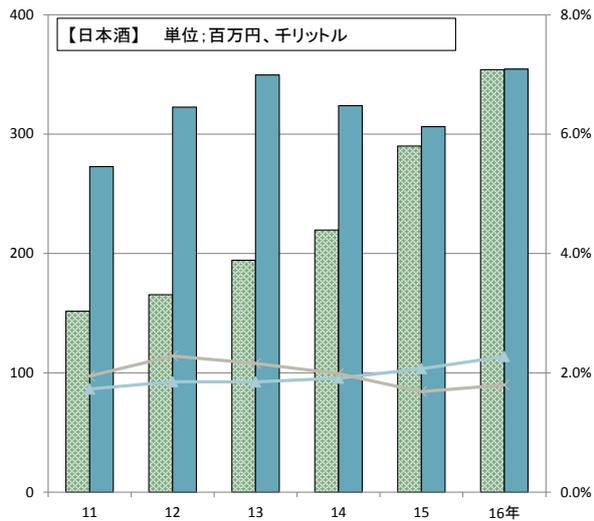
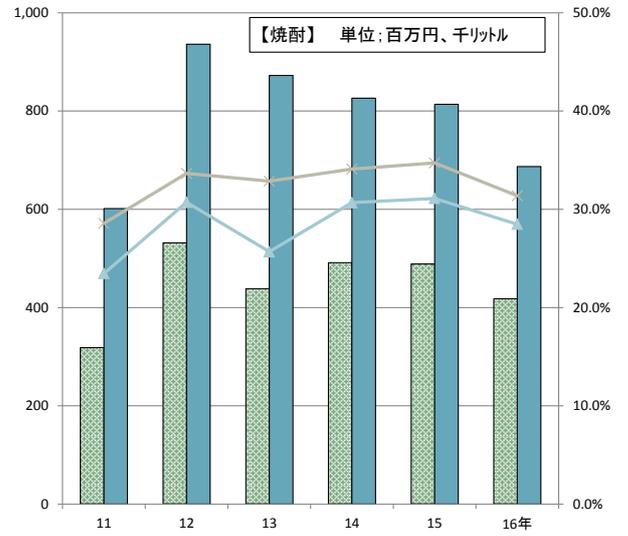
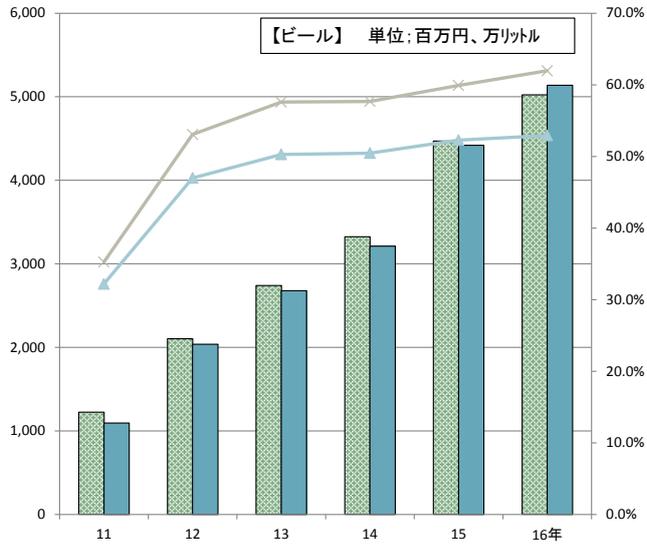


○牛肉の輸出額は年々増加しており、5年前（2011年）と比べて約4倍に伸長。

備考：HSコードは次のとおり。【豚肉】0203、【鶏肉】020711、020712、020713、020714、
【牛肉】0201、0202、020610、020629

③ 酒類

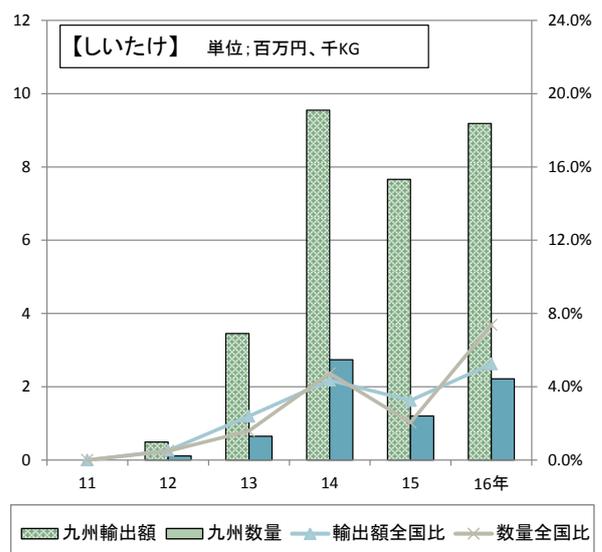
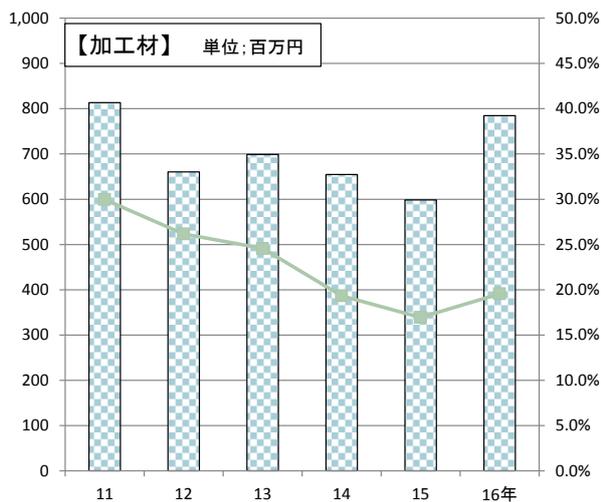
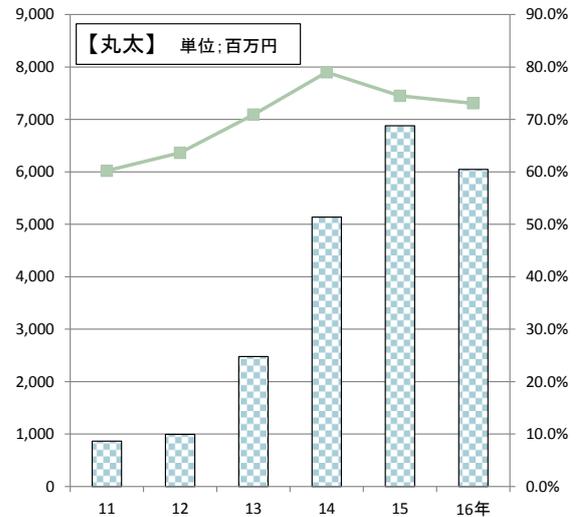
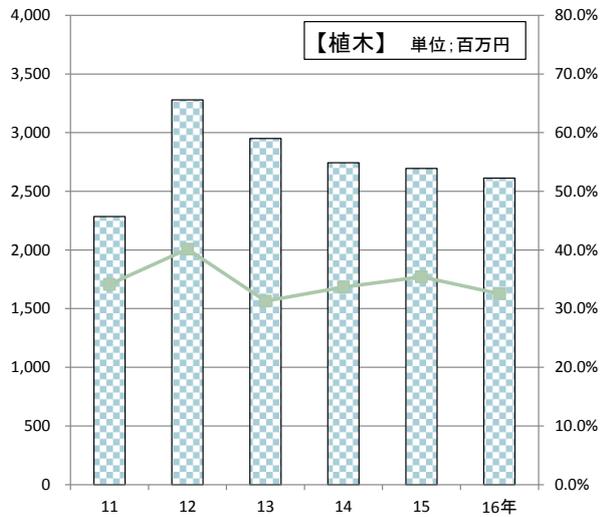
九州輸出額 九州数量 輸出額全国比 数量全国比



○ビールと日本酒の輸出額は年々増加しており、ビールについては輸出額の全国比が5割を超えている。

備考：HSコードは次のとおり。【ビール】2203、【焼酎】220890100、【日本酒】220600200

④ 林産物

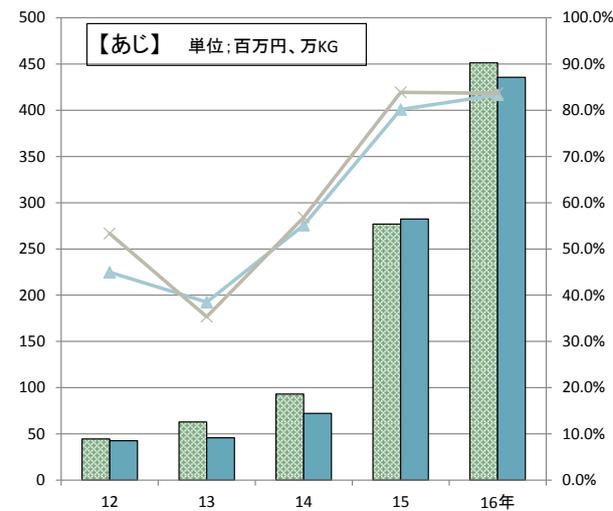
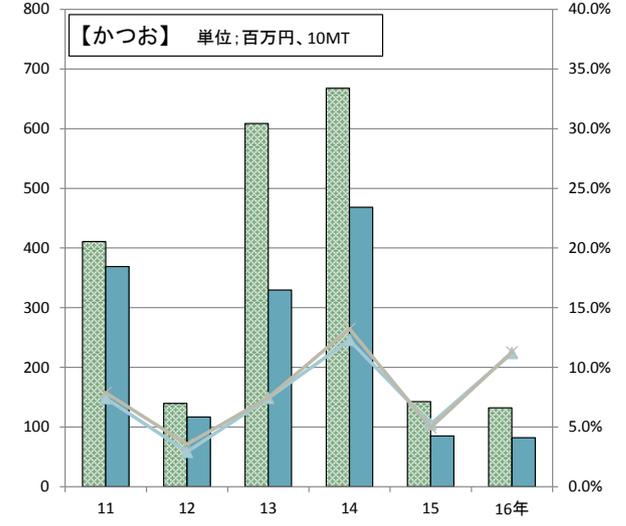
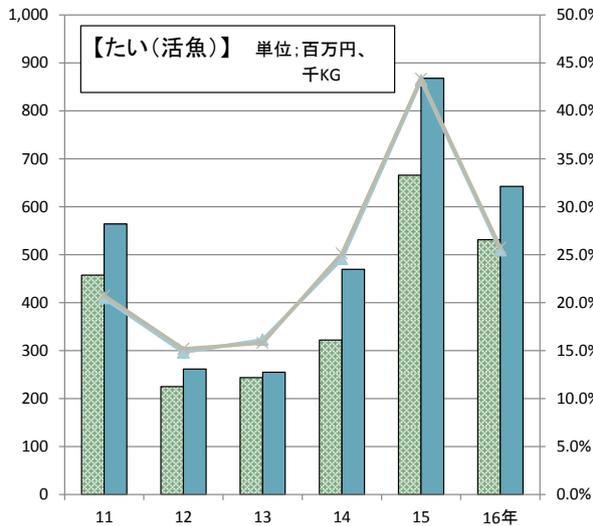
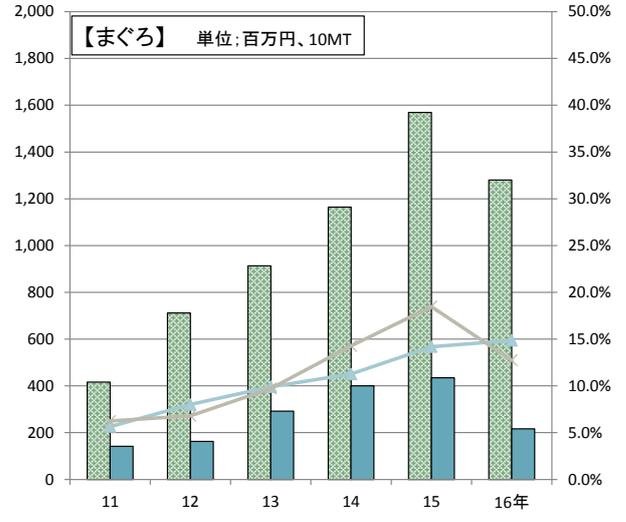
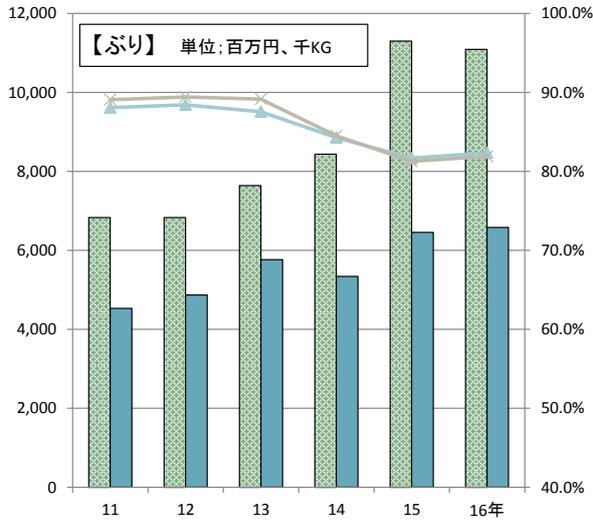


○輸出額が大きい林産物は、丸太や植木である。輸出額の全国比が高いのは丸太である。
○丸太の輸出額は2016年は前年より減少も、5年前（2011年）と比べると、7倍近くに伸長。

備考：HSコードは次のとおり。【植木】060230、060240、060290100、060290900、【丸太】4403、
【加工材】4407、4409、【しいたけ】071239100

⑤ 魚介類

九州輸出額 九州数量 輸出額全国比 数量全国比



備考: HSコードは次のとおり

【ぶり】 030449200、030459200、030489200

【まぐろ】 概況品 00701012

【たい(活魚)】 030199100

【かつお】 概況品 00701011

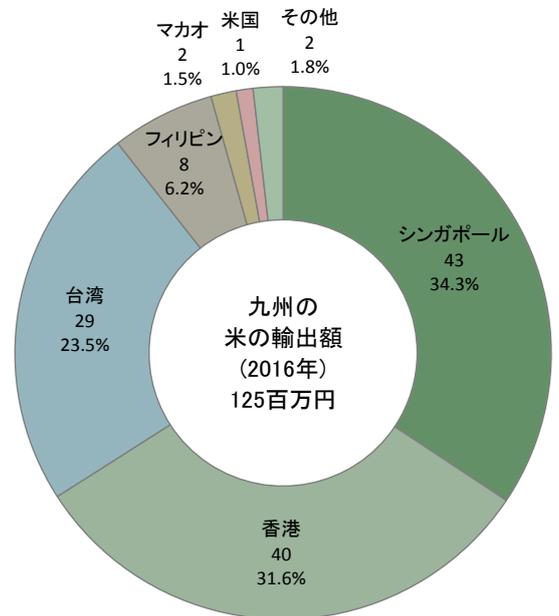
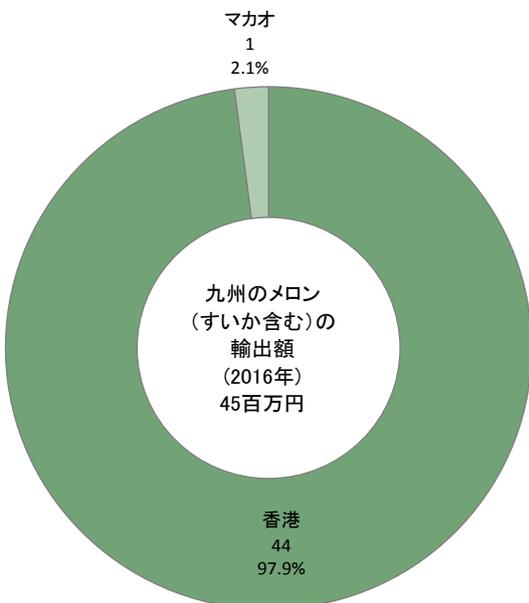
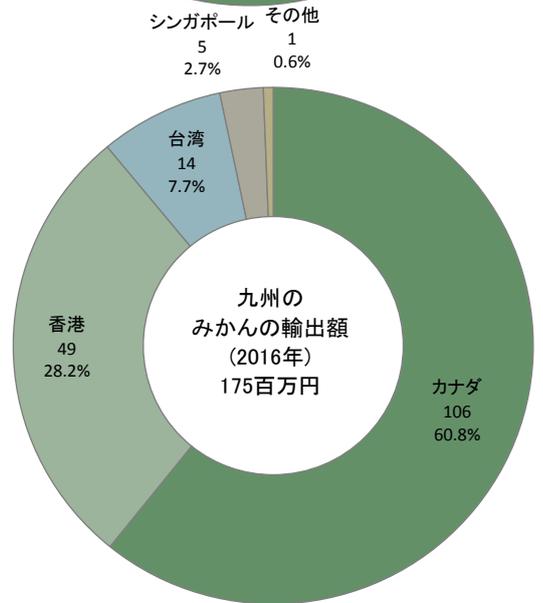
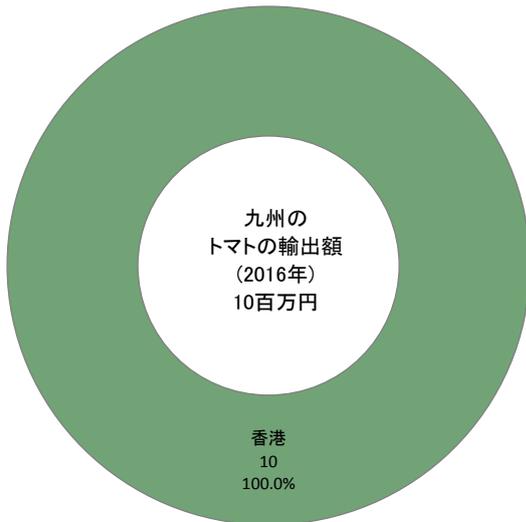
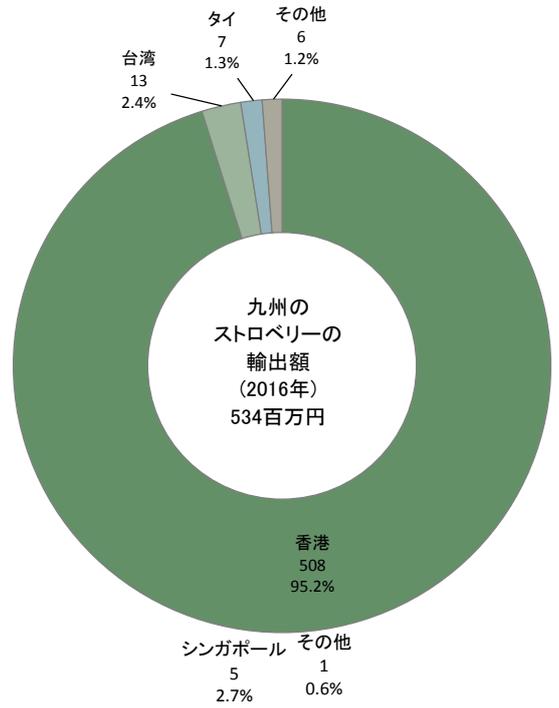
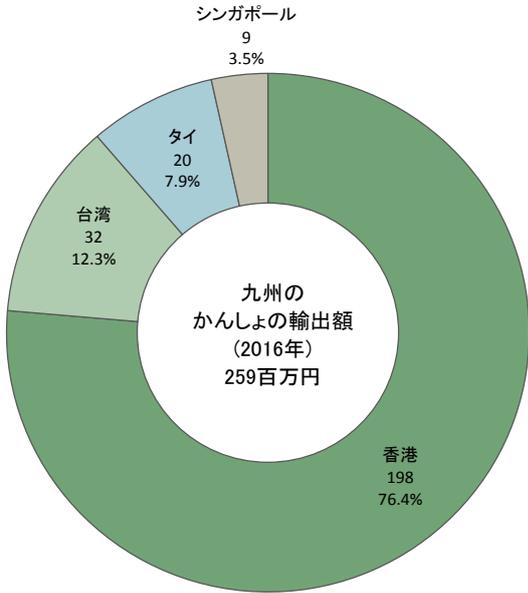
【あじ】 030245、030355

○ぶりの輸出額がもっとも大きく、全国に占める割合も高い。
○2016年は魚介類の輸出額が前年に比べて減少しているが、あじについては前年より伸長。

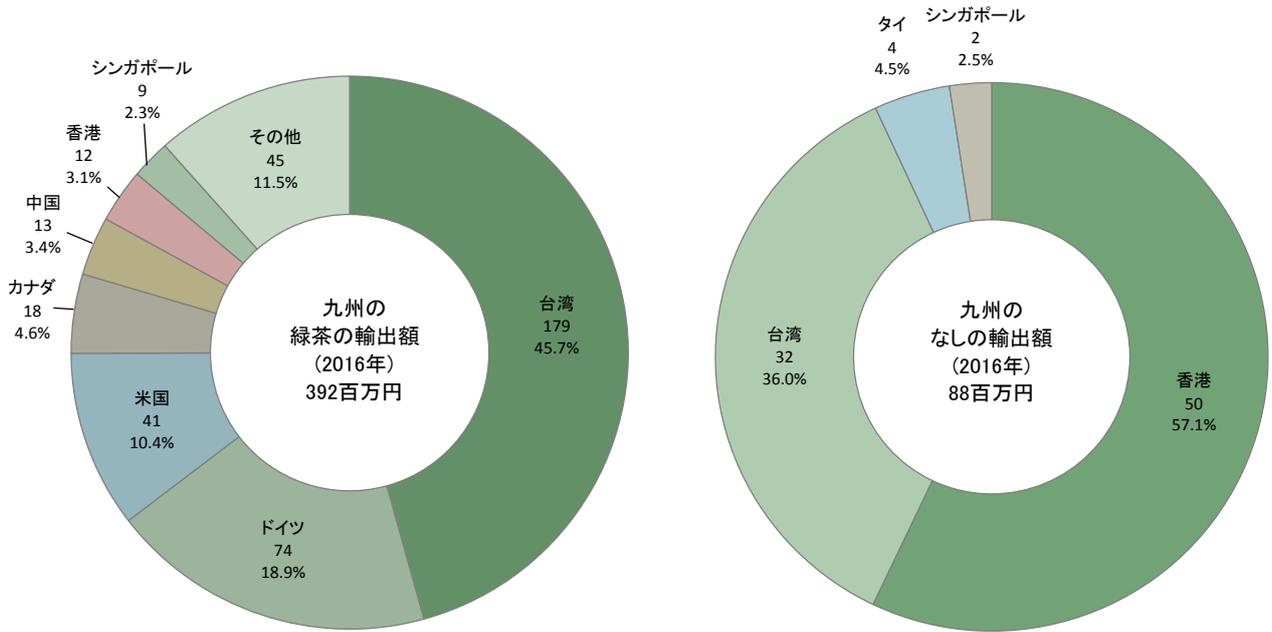
図表 3-6-2 九州の主要な農林水産物の輸出先

① 野菜・果物等

(単位：百万円、%)



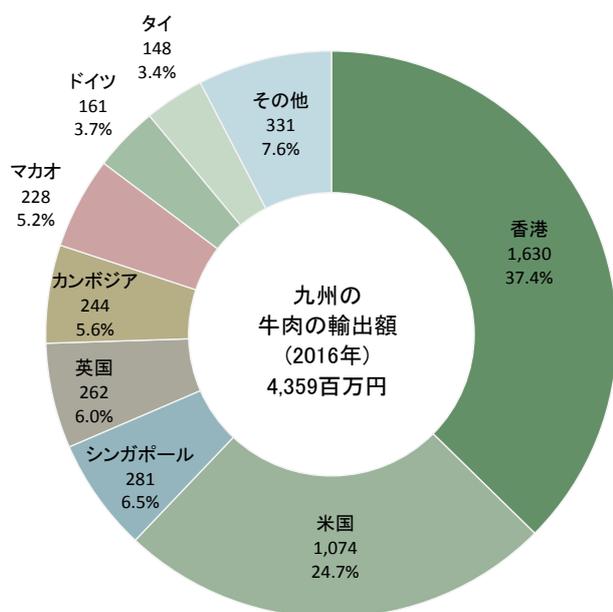
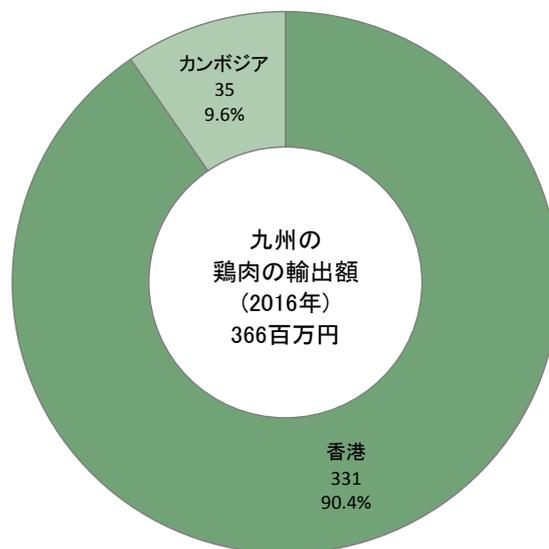
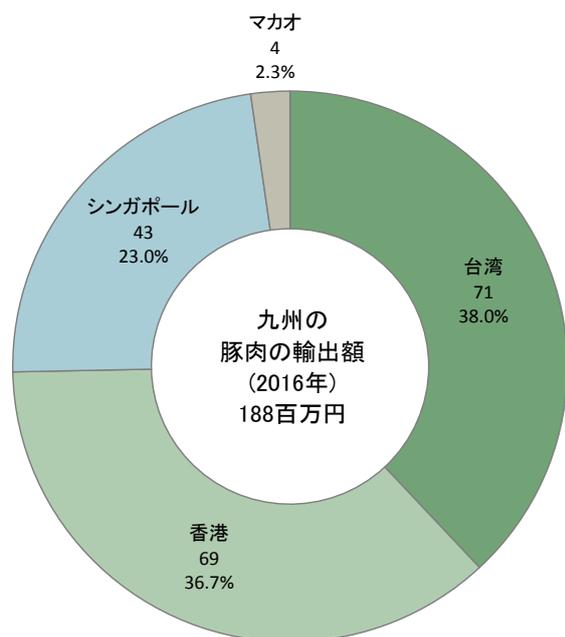
(単位：百万円、%)



○かんしょ、ストロベリー、トマト、メロン等多くの野菜・果物が香港向けに輸出されている。
○みかんの輸出先はカナダが最も多く、緑茶の輸出先は台湾が最も多い。

② 肉類

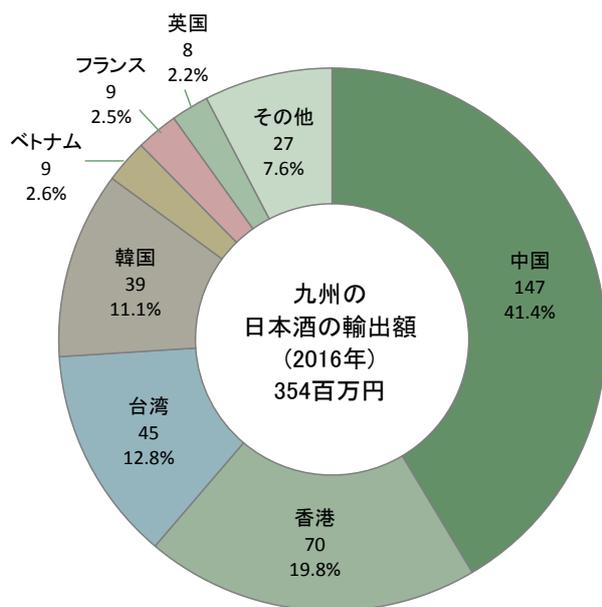
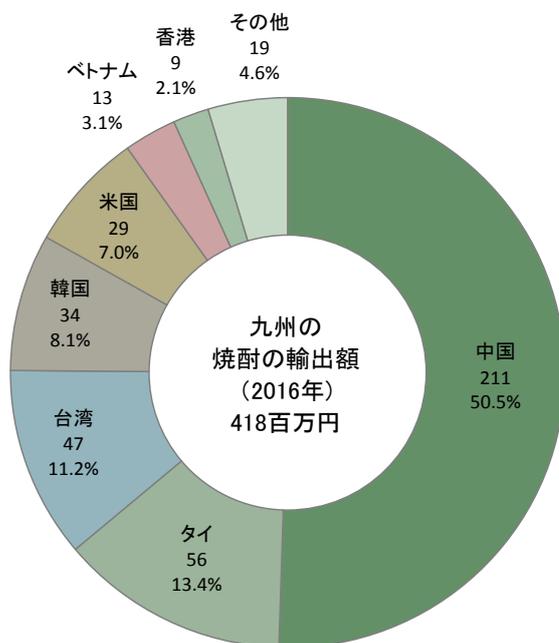
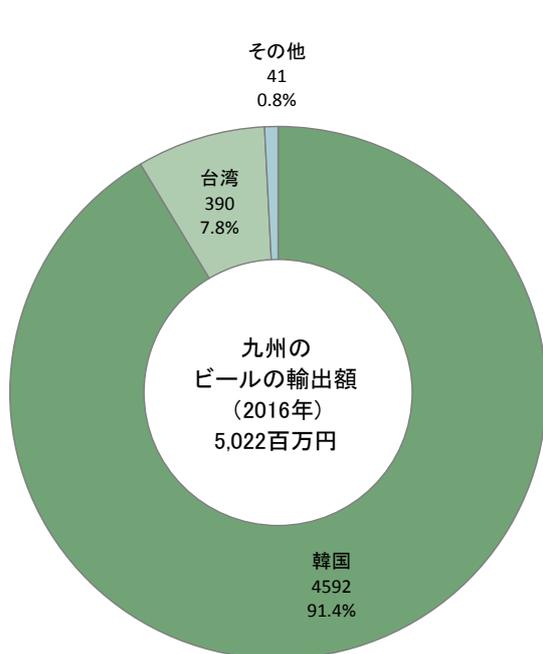
(単位：百万円、%)



○鶏肉及び牛肉の輸出先で最も多いのは香港で、豚肉については台湾向けが最も多い。
○牛肉については、米国や英国、ドイツなど欧米諸国へも多く輸出している。

③ 酒類

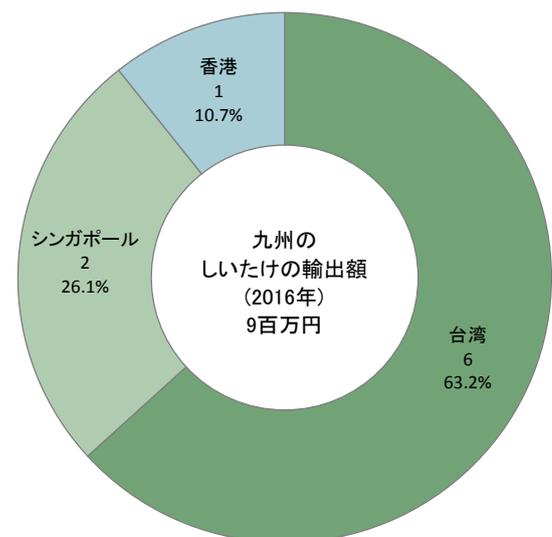
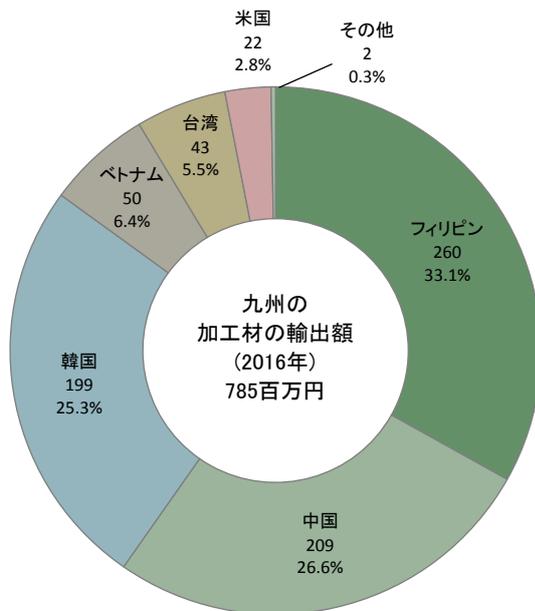
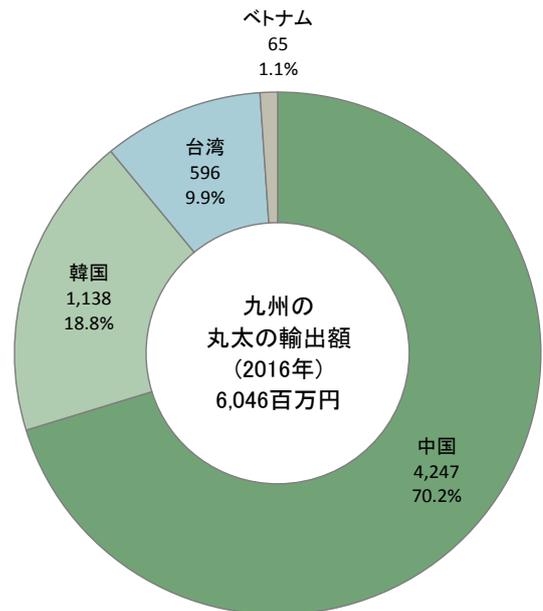
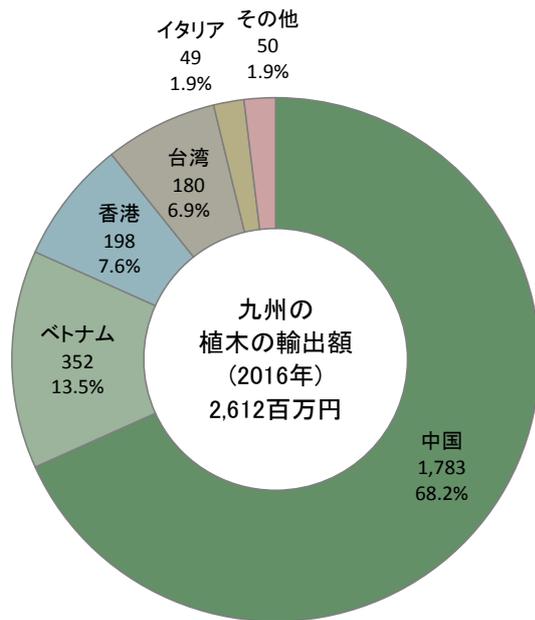
(単位：百万円、%)



○ビールは韓国、日本酒と焼酎は中国が最大の輸出先。アジア向けの輸出が多い。

④ 林産物

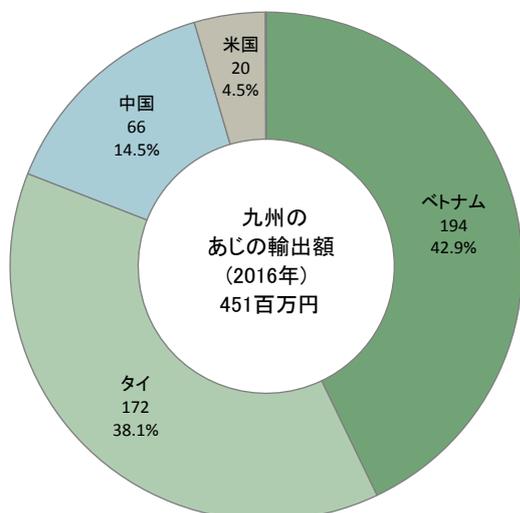
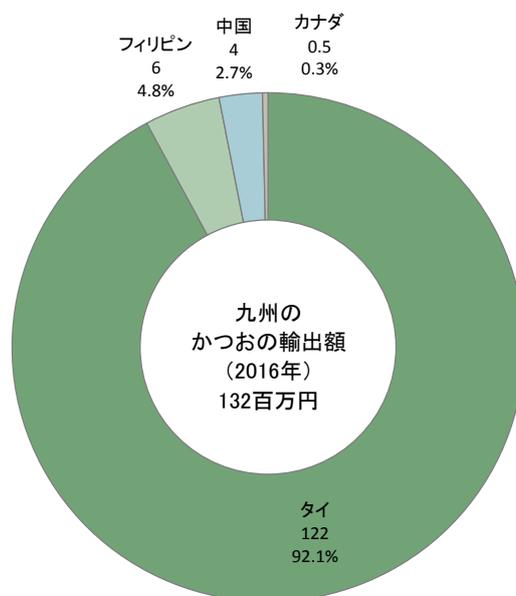
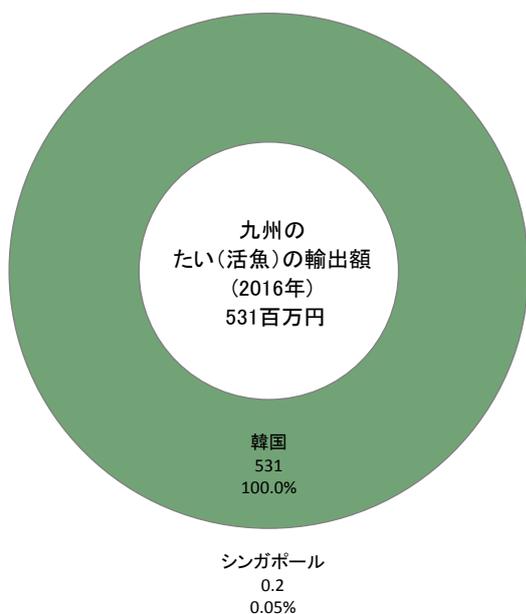
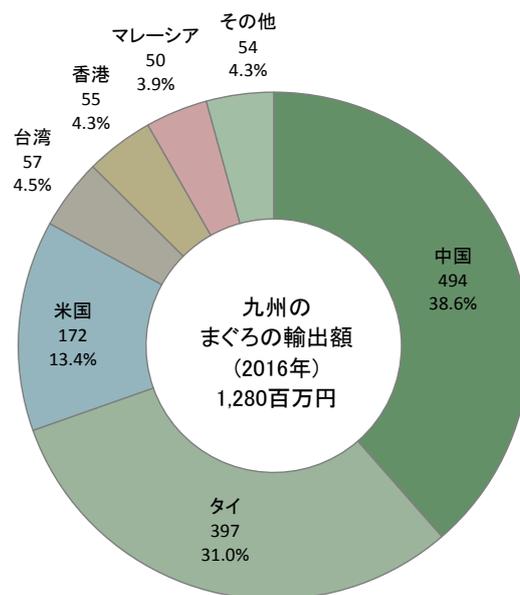
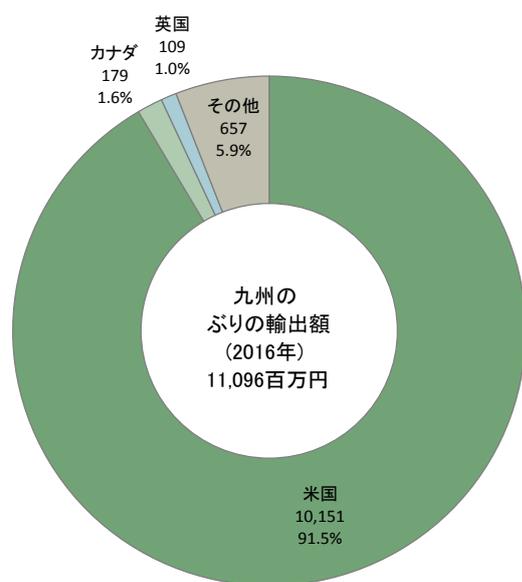
(単位：百万円、%)



○これらの林産物の輸出はアジア向けが大半を占めており、丸太及び植木は中国、加工材はフィリピンが最大の輸出先となっている。

⑤ 魚介類

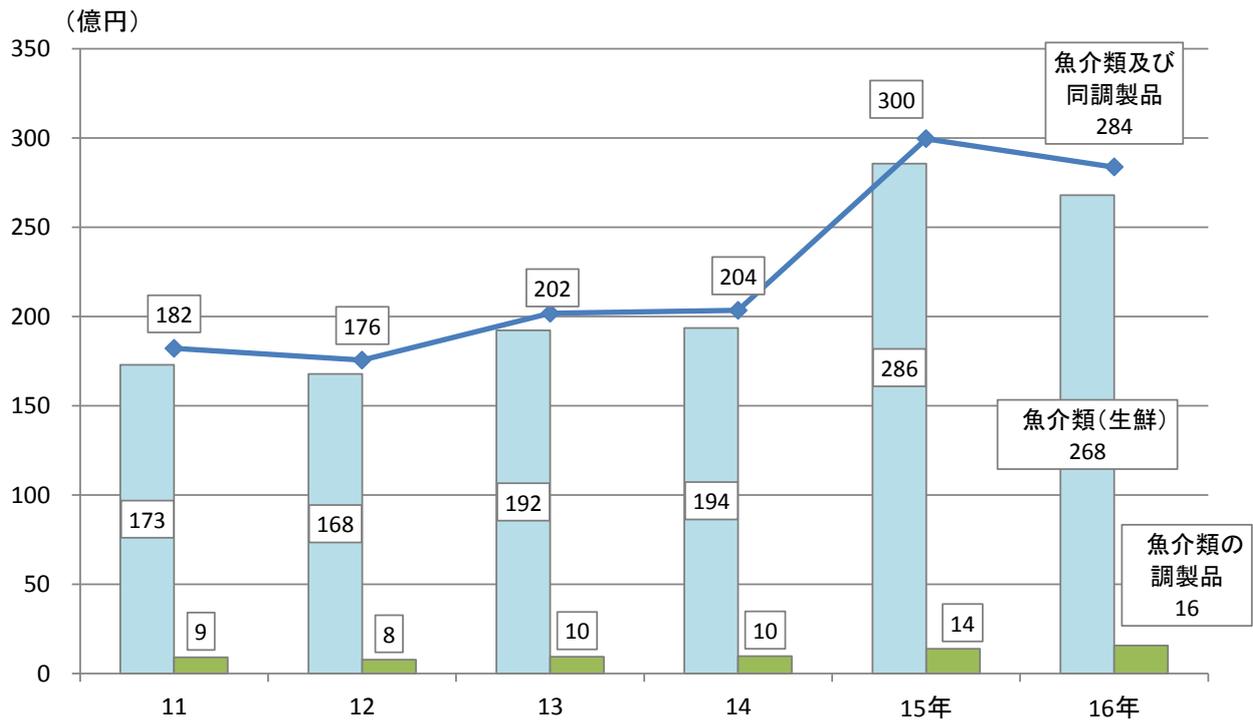
(単位：百万円、%)



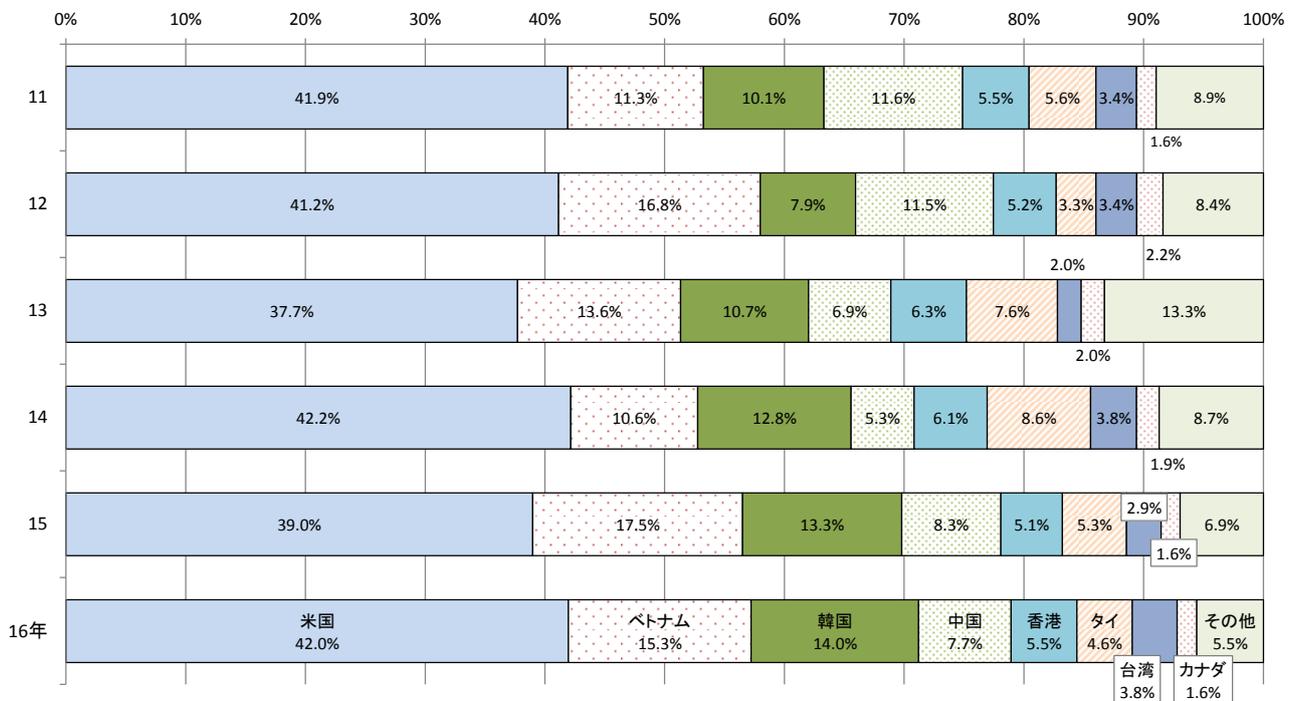
○魚介類の輸出先については、中国や韓国、ASEAN 諸国などアジアが多いが、ぶりについては米国向けが大半を占めている。

図表 3-6-1~2 出所：財務省「貿易統計」より九州経済産業局作成。

図表 3-6-3 九州の魚介類及び同調製品輸出額の推移



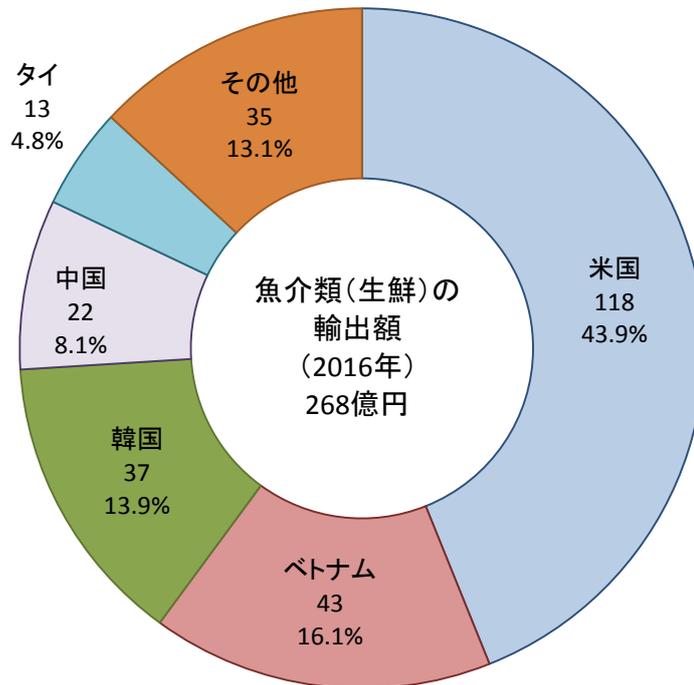
図表 3-6-4 九州の魚介類及び同調製品の輸出相手国・地域の推移



図表 3-6-3~4 出所：財務省「貿易統計」より九州経済産業局作成。

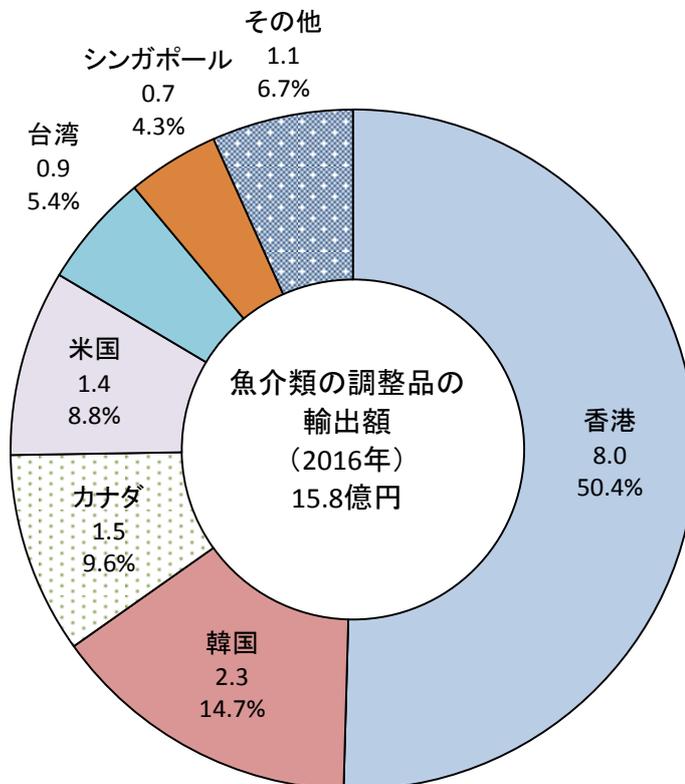
図表 3-6-5 九州の魚介類（生鮮）の輸出相手国・地域

(単位：億円、%)



図表 3-6-6 九州の魚介類の調整品の輸出相手国・地域

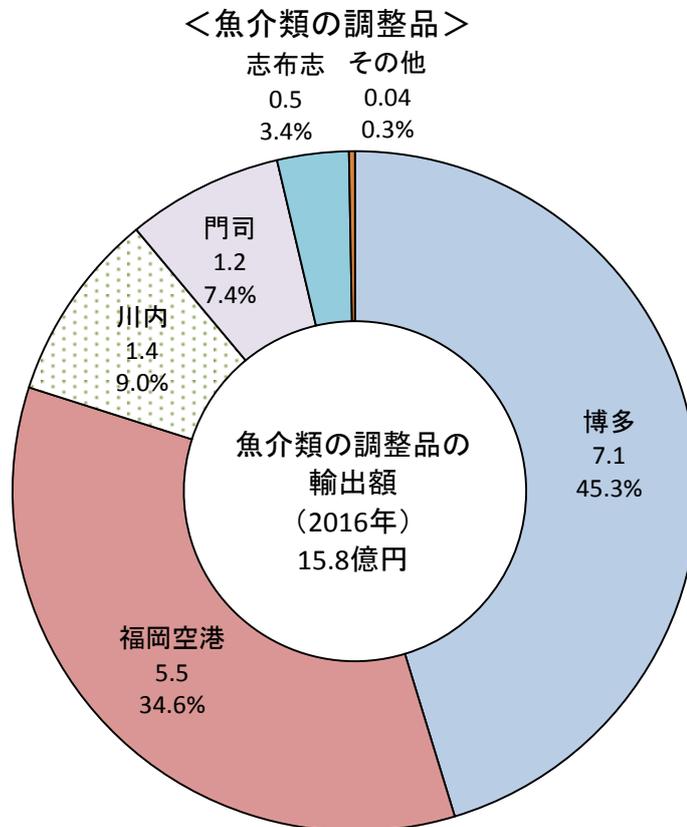
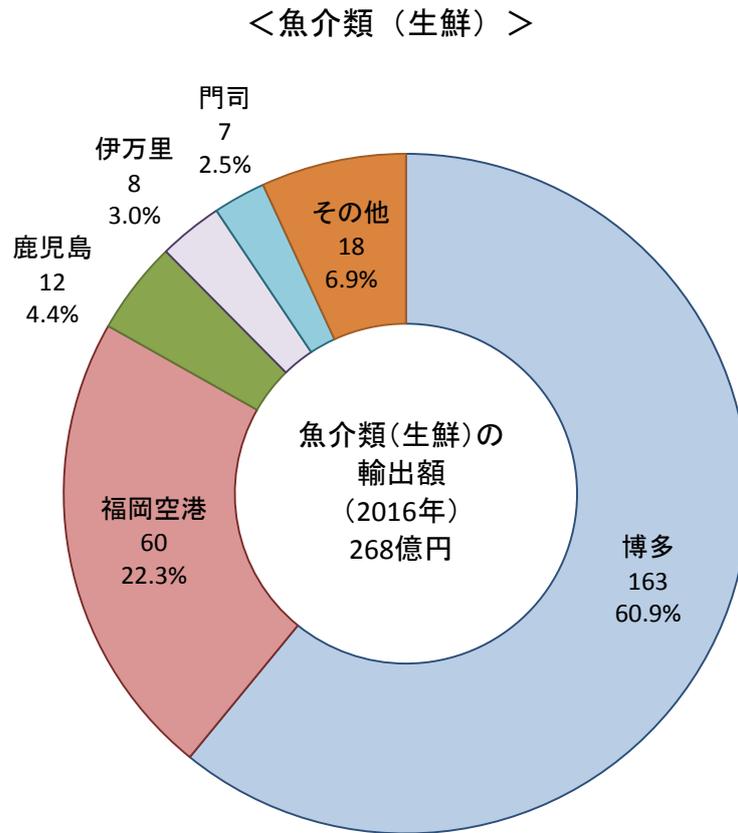
(単位：億円、%)



図表 3-6-5~6 出所：財務省「貿易統計」より九州経済産業局作成。

図表 3-6-7 九州の港別魚介類の輸出額

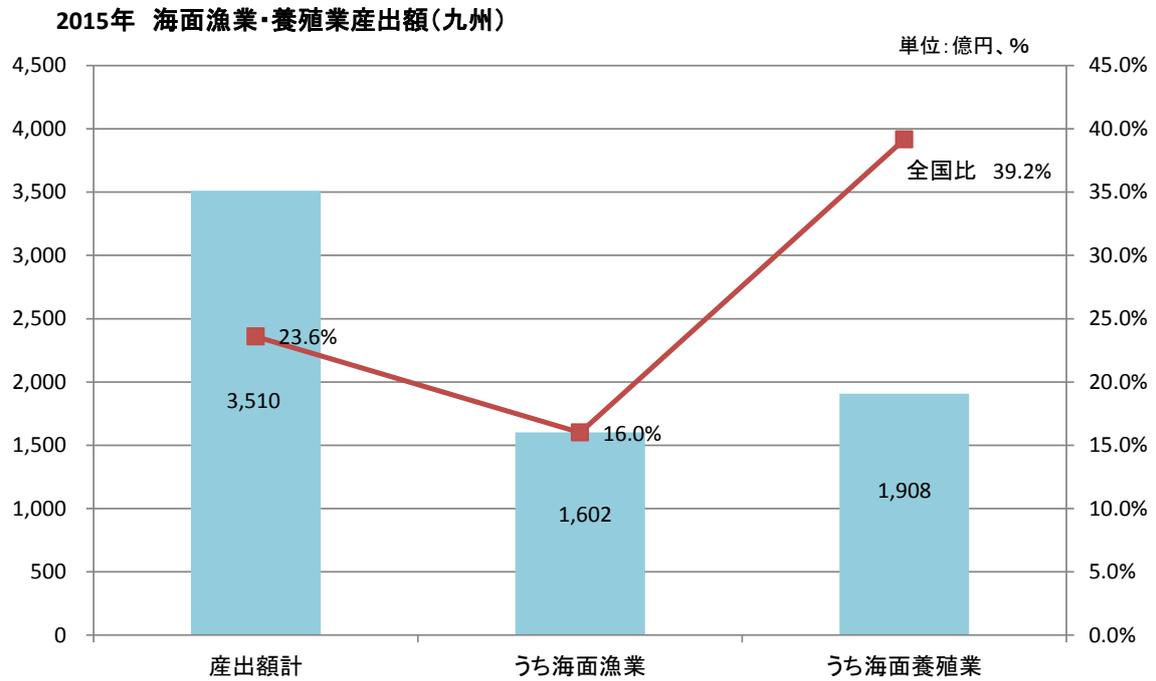
(単位: 億円、%)



出所：財務省「貿易統計」より九州経済産業局作成。

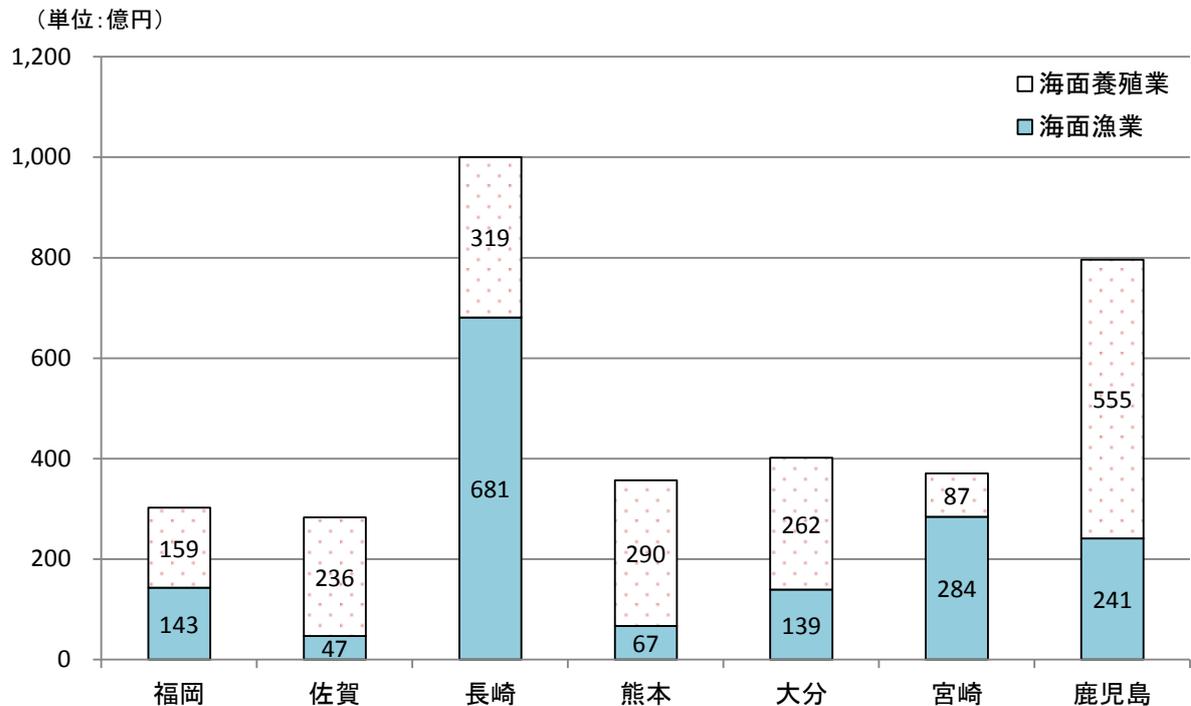
図表 3-6-8 九州の漁業産出額の動向

＜九州の海面漁業・養殖業の産出額と全国比（2015年）＞



＜九州の県別の海面漁業・養殖業の産出額（2015年）＞

九州の県別の海面漁業・養殖業の産出額(2015年)

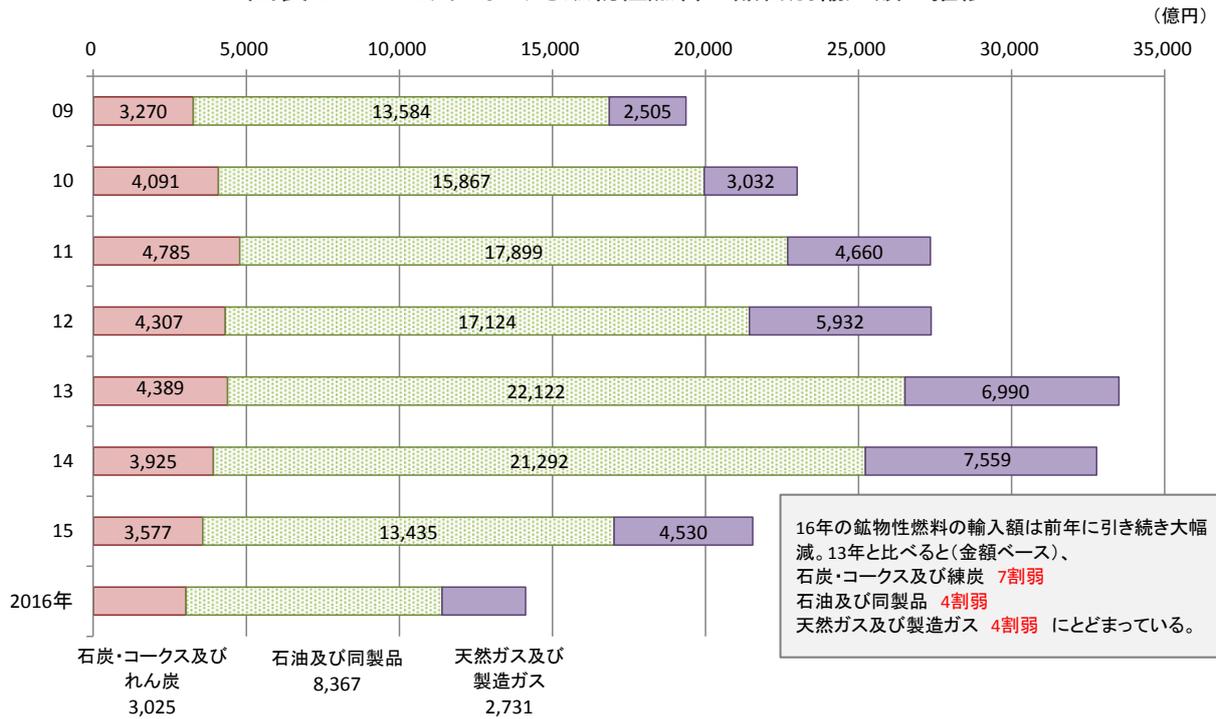


出所：農林水産省「平成27年漁業産出額」より九州経済産業局作成。

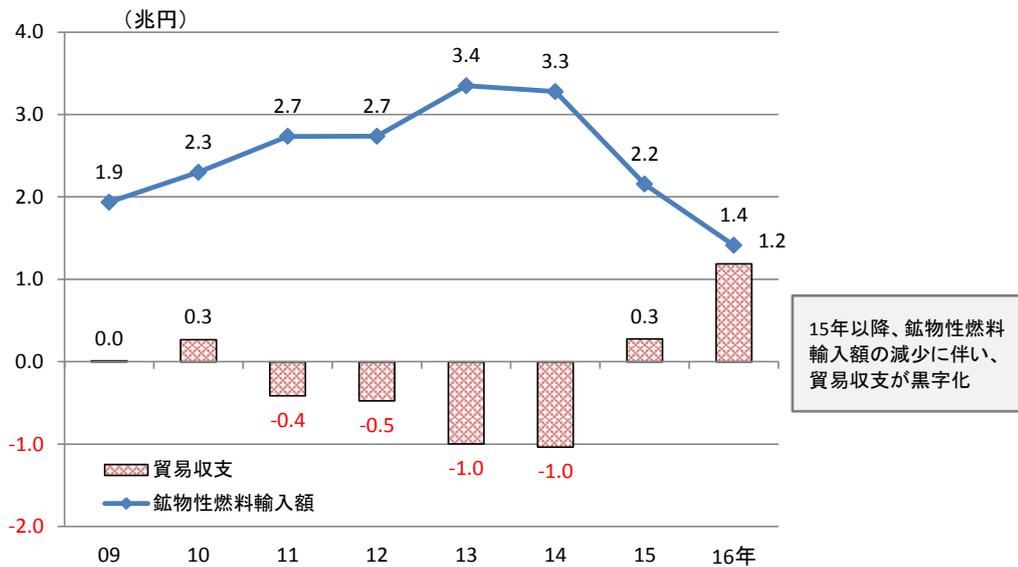
第7章 鉱物性燃料

- 2011年の東日本大震災以降、LNGなどの鉱物性燃料の需要増に加えて資源相場の高騰により、九州においても鉱物性燃料の輸入額が増加していたものの、2015年になると資源相場の下落などから、鉱物性燃料の輸入額が大幅に減少し、貿易収支が5年ぶりに黒字化した。2016年も前年からの下落の影響により大幅に減少し、貿易収支は2年連続の黒字となった。
- 2016年の九州の鉱物性燃料の輸入額は1兆4,123億円（前年比34.4%減）と3年連続で減少した。品目別では、石炭・コークス及び練炭、石油及び同製品、天然ガス及び製造ガスのいずれも輸入額が前年を下回った。

図表 3-7-1 九州における鉱物性燃料の品目別輸入額の推移

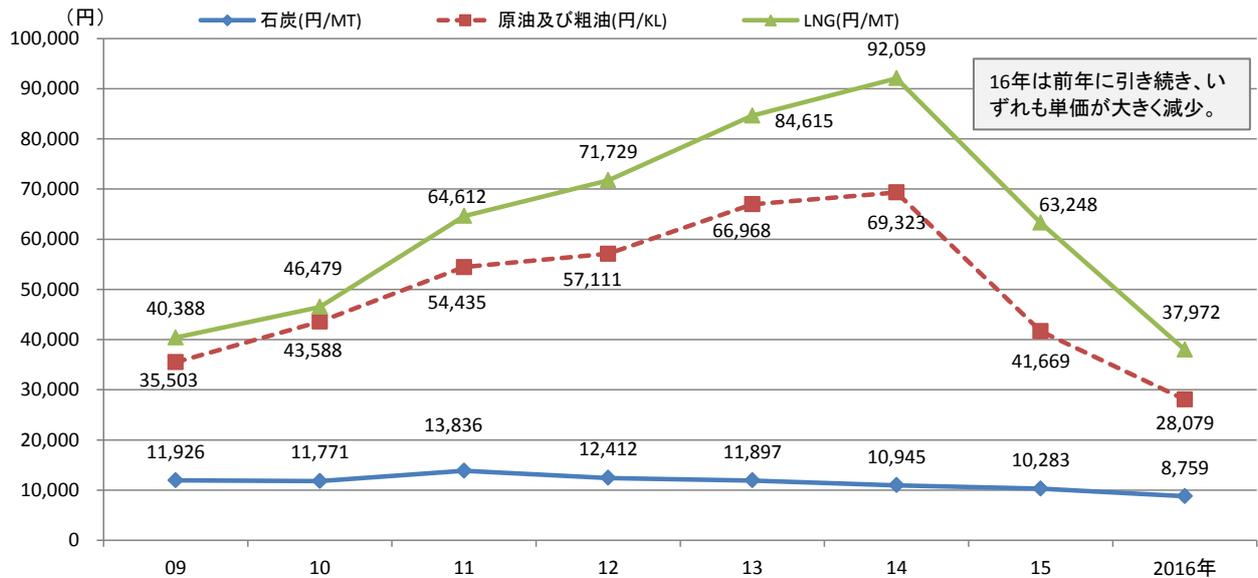


図表 3-7-2 九州における鉱物性燃料輸入額と貿易収支の推移



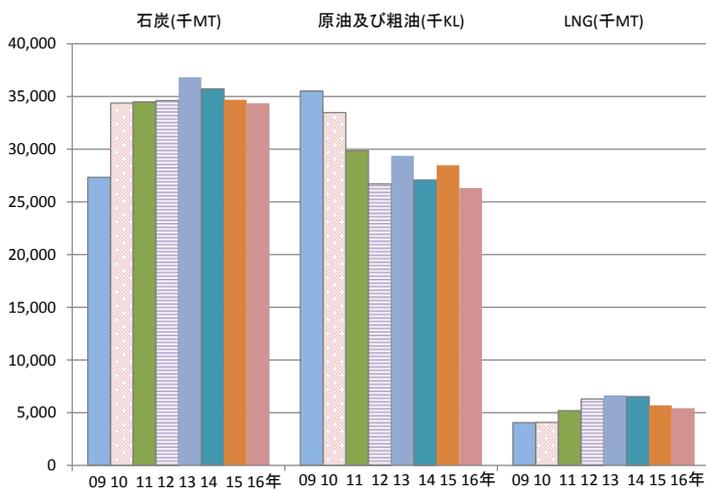
- 鉱物性燃料の輸入単価については、石炭は2011年以降、緩やかに減少した。原油及び粗油とLNGについては2014年までは上昇を続けていたが、2015年に大きく下落した。2016年もさらに下落し、世界的な資源相場下落が輸入単価の引き下げにつながったことがうかがえる。
- 輸入数量については、2016年はいずれも前年に比べて減少した。輸入単価の下落と輸入数量の減少が相まって、九州の鉱物性燃料の輸入額は大幅に前年を下回る結果となった。

図表 3-7-3 九州の主な鉱物性燃料の輸入単価

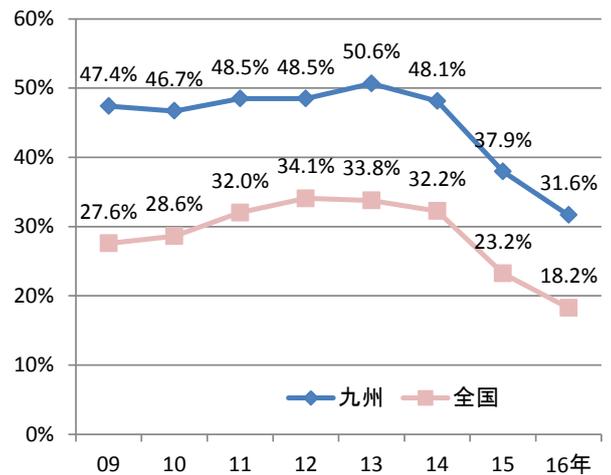


備考:それぞれの輸入単価は各年の輸入金額を輸入数量で割った値。

図表 3-7-4 九州の主な鉱物性燃料の輸入数量の推移

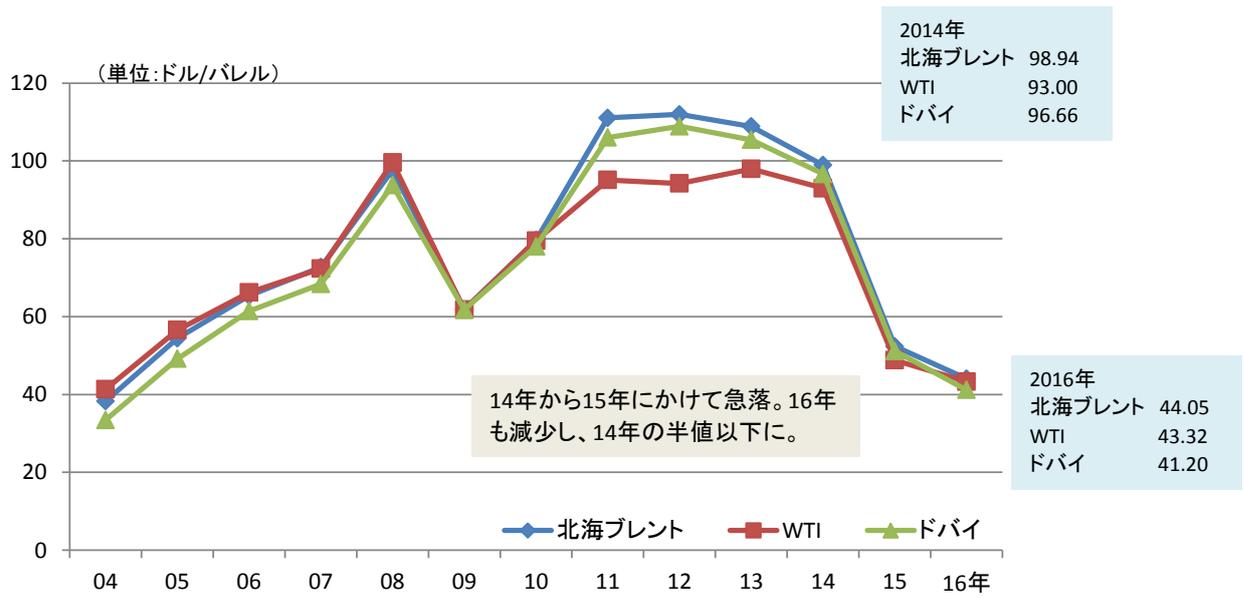


図表 3-7-5 九州と全国の輸入総額に占める鉱物性燃料の割合



図表 3-7-1~5 出所:財務省「貿易統計」より九州経済産業局作成。

図表 3-7-6 原油相場における原油価格の推移



出所:内閣府「月刊海外経済データ」より九州経済産業局作成。

【トピックス】熊本地震の九州の輸出動向への影響について

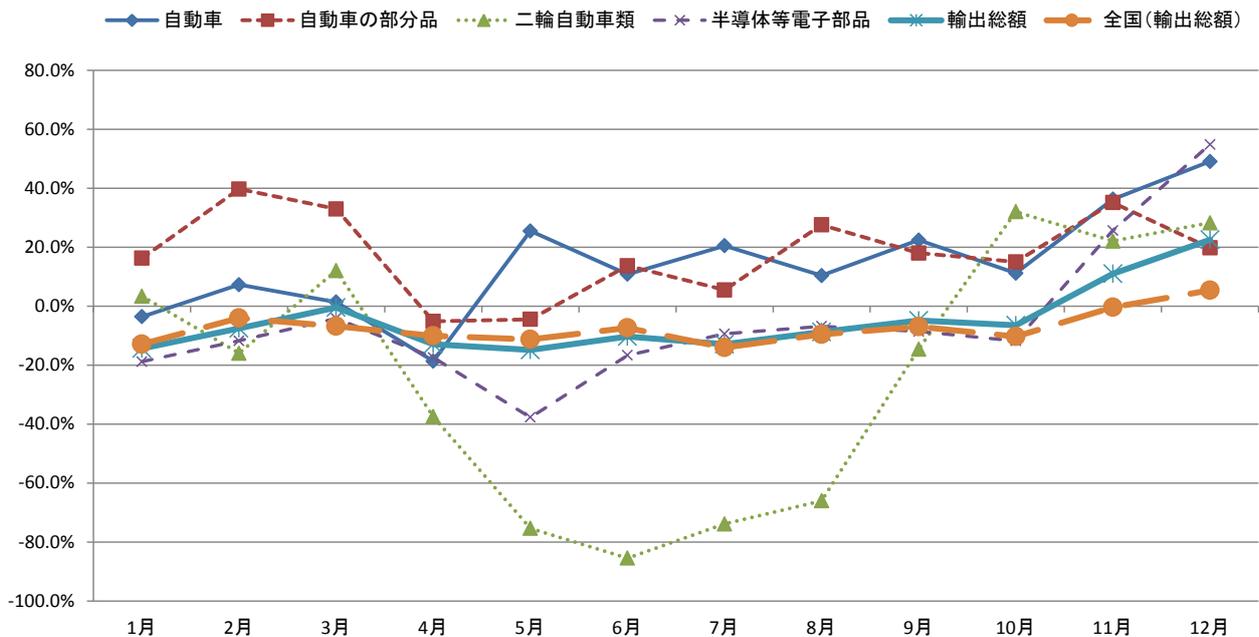
○2016年4月中旬に発生した熊本地震による九州の輸出動向への影響について、輸出総額及び品目別輸出額の前年同月比を見てみると、地震が発生した4月は、各品目とも大きく減少し、輸出総額についても前年同月比▲12.9%となった。

○翌5月については、地震の影響が大きく残っており、自動車の部分品、二輪自動車類及び半導体等電子部品については、輸出額が前年同月を下回り、特に二輪自動車類及び半導体等電子部品については、4月よりも減少幅が拡大した。一方、自動車については、前年同月比+25.5%と大幅に増加し、品目により明暗が分かれる結果となった。

○特に、九州における生産拠点が被災した二輪自動車類については、6月の前年同月比が85.5%減を記録するなど、9月時点まで大幅減が続いた。

○しかし、11月以降は各品目ともに前年同月比プラスとなり、全体的に回復した。

【図表】九州の輸出総額及び品目別輸出額の前年同月比推移（2016年）



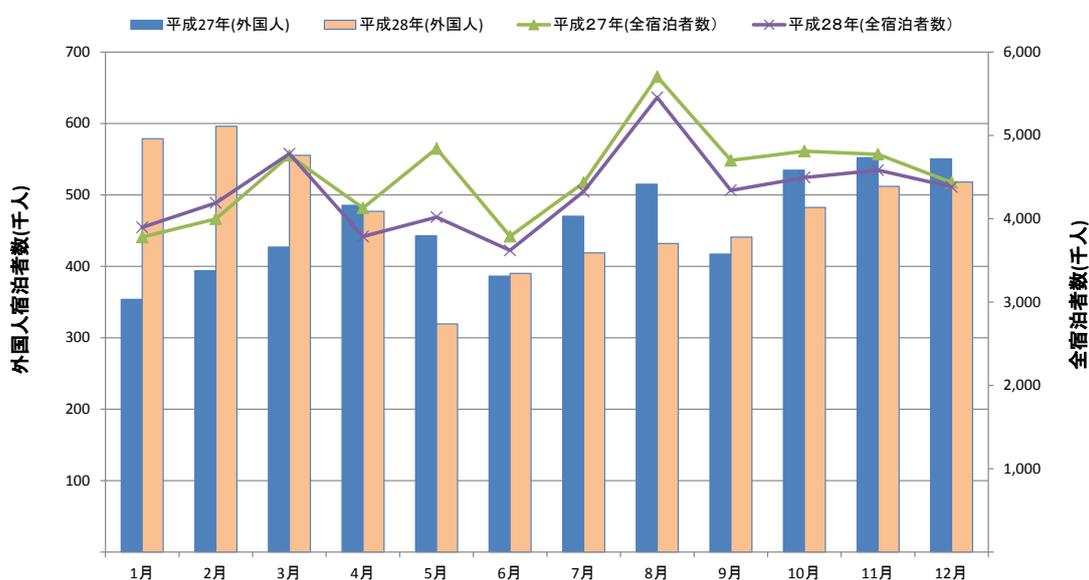
品目	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
自動車	-3.6%	7.3%	1.4%	-18.7%	25.5%	10.8%	20.5%	10.4%	22.4%	11.2%	36.3%	49.1%
自動車の部分品	16.3%	39.7%	33.0%	-5.1%	-4.5%	13.7%	5.5%	27.6%	18.0%	15.0%	35.1%	19.7%
二輪自動車類	3.4%	-16.0%	12.1%	-37.5%	-75.4%	-85.5%	-73.9%	-66.0%	-14.6%	32.0%	22.1%	28.3%
半導体等電子部品	-18.8%	-11.8%	-4.1%	-17.4%	-37.7%	-16.7%	-9.4%	-6.8%	-8.6%	-11.8%	25.7%	54.9%
輸出総額	-14.4%	-7.6%	-0.5%	-12.9%	-14.8%	-10.3%	-12.9%	-8.7%	-4.9%	-6.5%	11.0%	22.6%
全国(輸出総額)	-12.9%	-4.0%	-6.8%	-10.1%	-11.3%	-7.4%	-14.0%	-9.6%	-6.9%	-10.3%	-0.4%	5.4%

出所：財務省「貿易統計」より九州経済産業局作成。

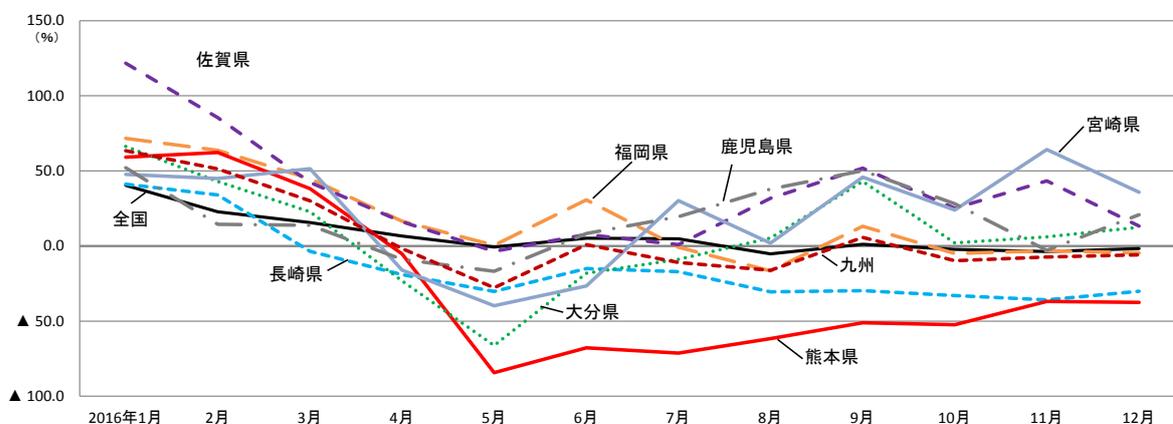
【トピックス】熊本地震の観光への影響について

- 2016年4月の熊本地震の影響により、地震発生後、特に5月の九州の宿泊者数が前年同月に比べ大きく減少した。また、外国人宿泊者数も前年同月に比べ3割弱と大きく減少した。
- しかし、九州観光支援のための割引付旅行助成制度(九州ふっこう割)や自治体及び各団体等の誘致活動などにより、宿泊者数全体としては前年水準に回復した。また、外国人宿泊者数についても増加傾向にある。
- なお、九州各県別でみると、特に、直接地震の被害を受けた熊本県、大分県は地震発生後、大きく落ち込んだものの、被害の小さかった大分県については、8月には前年水準に回復した。しかし、被害の大きかった熊本県は依然として前年水準を大きく下回る状況が続いている。

九州における延べ宿泊者数の推移



九州における各県別外国人延べ宿泊者数対前年同月比の推移



出所：観光庁「宿泊旅行統計調査結果」より九州経済産業局作成

